

武蔵野市第四期長期計画調整計画

緑・環境・市民生活分野市民会議

第7回

平成18年12月12日（火）

武蔵野市役所 802会議室

- 日 時 平成 18 年 12 月 12 日（火）午後 6 時 30 分～午後 9 時 30 分
- 場 所 武蔵野市役所 8 階 802 会議室
- 出席者 赤松委員、石川委員、今木委員、河田委員、久木野委員、栗原委員、
上月委員、西園寺委員、島田委員、白石委員、瀬口委員、谷委員、富川委員、
長嶋委員、新垣委員、皆川委員、渡部委員、小竹先生（アドバイザー）、
事務局、傍聴者 4 名

午後 6 時 30 分 開会

1. 開 会

○小竹アドバイザー それでは、第 7 回武蔵野市第四期長期計画・調整計画、緑・環境・市民生活分野の市民会議を始めたいと思います。

本日、ちょっと資料がたくさんありますけれども、次第を配ってありますので、それに沿って進めさせていただきます。

それではまず初めに、第 4 回の議事録の確認をさせていただきたいので、事務局の方からお願いいたします。

○渡辺幹事長 それでは、事務局から何点かございまして、大変申しわけございませんけれども、ちょっと後ろの黒板に書かせていただきましたので、お手元の議事録の方、私も読み上げますけれども、ご確認いただきながらご了解の方、いただければと思います。

まず第 1 点目ですけれども、訂正はこういった本当に変換の誤りですとか字句の修正といったものでございます。

まず 7 ページでございまして。下から 9 行目、「それから、5 ページですと」というところの右の方に「施政アンケート」とございましてけれども、これは「市政」。

続きまして 8 ページでございまして、こちらは上から 6 行目でございまして。「各コミュニティ協議会と」というところのくだりですが、「共同ということにつきましては」は「協働」です。

その下 2 行のところ、「市民と市長のタウンミーティング」をかぎ括弧でとじていただければと思っております。その右の「市長と語る会」もかぎで括弧していただければと思います。

その後の「市長と語る会の市の主催」でございますけれども、これは「市長と語る会が市の主催という形で」に変えていただきたいと思います。

おめくりいただきまして、9 ページの一番上の真ん中辺「北ホールをのけまして」となっているのですが、「含めまして」でお願いいたします。

それと、ちょうど真ん中辺になりますけれども、「大きな施策としては、」というところの段落でございます。「2つございまして、」の後、「コミュニティの活性化」と「協働推進体制の整備」をかぎでくくっていただければと思います。

おめくりいただきまして、11 ページの上から 11 行目でございます。「NPO 活動支援の充実につきましては」の下の行、「補助金、口座、それから」は「講座」でございます。

12 ページの真ん中辺、上から 12 行目、「富士高原ファミリーロッジの」のくだりですけれども、「貸し施設」は「夏季施設」で修正をお願いいたします。

少し飛びまして 24 ページでございます。下から 7 行目「さらに加えて、NPO 市民活動」の 1 つ上の行、「ということについては普遍であろう」は「不変」でお願いいたします。

おめくりいただきまして、25 ページでございます。上から 5 行目、「全文からなる」は「前文」にご訂正をお願いします。

最後でございます。48 ページ、下から 12 行目、「富士重工の社宅を」の 1 つ上、「八幡町コミセンの闘いについても」は「建てかえ」でございます。

多くて大変申しわけございませんけれども、事務局からは、以上のご訂正をお願いしたいと思います。

○小竹アドバイザー 訂正は黒板に書いてあります。ちょっと量が多うございますけれども、各自でご訂正をお願いしたいと思います。

以上、よろしゅうございますでしょうか。あるいははっきりしなかった部分がありましたら、今おっしゃってくださいませ。

それでは、議事録の訂正をしていただきまして、これで議事録確定ということでよろしくをお願いいたします。

○栗原委員 もう少し訂正をお願いします。

29 ページの私の発言部分ですけれども、下から 10 行目、「1 つ目の『都市の窓を開こう』」と書かれているところの先ですが、「これは国内の地方との国際的な関係」、これでは意味が通じませんで、「国内の地方との関係と国際的な関係」というふうには、「関係

と」を「国際的な」の前に入れていただきたいと思います。

それから、33 ページ、谷さんのご発言のところですが、真ん中あたりに「それから、先ほど関連で出ていました協働参画」という表現がありますが、これは「共同」ではないか。同じようなことが8行ぐらい下の右の方に「その実態は、協働参画で私は」も同じではないかと思えます。

もう1カ所、39 ページ、新垣委員の発言のところですが、下から14行目で「私、幾つかのコミュニティセンターをずっと訪問させていただいて」の先に「その会議が非常に極端であります」と書いてありますけれども、これは「乖離」ではないか。

以上です。

○小竹アドバイザー どうもありがとうございました。今4点ご指摘がございましたが、大丈夫でしょうか。

○西園寺委員 訂正じゃないんですが、考えてみたら、この会議の議事録に出席者の名前の一覧がないように思うんですけども、そういうのを載せることはできないんでしょうか。

○渡辺幹事長 次回から、そのようにいたします。

○小竹アドバイザー そうしたら、今までの分をプリントして配っていただくということをお願いいたします。気がつかなくて済みません。ありがとうございます。

そのほかにございますでしょうか。それでは、ただいまご指摘のありました点を訂正、追加の分も1カ所ありましたけれども、訂正していただいて、第4回の議事録確定とさせていただきます。ありがとうございました。

では、事務局からきょうの配付資料についてご説明願います。

○渡辺幹事長 それでは、配付資料をご説明します。

次第の下欄をそれぞれ確認していただきたいと思います。多分順番になっていると思いますが、先日決めましたグループを分けました表でございます。3人の方が欠席でございましたので、本日、谷委員はいらっしゃっていますので、あとでまた議事の方でそちらの確認をしていただければと思います。

それと、委員の方から提出のございました資料が2つです。「第3グループ項目整理—その1—」というものと、「市民生活1での提言・意見概要」というものでございます。本日のたたき台になるかと思えます。

続いては、事務局からの正誤表が2点ございます。1つは企画調整課から出されております、前回お配りしました四長の実施状況の正誤表でございます。8ページ、障害者福祉

課の部分でございます。

もう1点は、横の表で、もしかしたら隣に置いてあるかもしれませんが、ごみ総合対策課が事業説明のときに、事業概要に挟んで配付したものの差しかえでございます。これは（4）と（6）についてグラフに若干訂正がありましたものですから、お差しかえをいただければと思っています。

内容は、（4）のところだと、17年度の棒グラフのところは、もう少し量が多かったということで、今回、上に伸びた表になっています。

もう1つ、（6）の方も同じような形で、こちらは折れ線グラフですけれども、17年度の「ごみ資源化率」の四角の部分が、実際前回お配りしたものよりも今回の方が少し下になっております。これはデータの数値で誤って、前回こういった表を配ったということで、こちらが正しい表ですので、お差しかえのほどをいただければと思っています。

5点目といたしまして、袋に入っておりますけれども、市外から武蔵野市内に転入をされた場合に配布をしているものでございます。「わたしの便利帳」と「ごみ便利帳」をお配りしております。参考にしていただければと思います。

6点目といたしまして、武蔵野プレイスの基本設計の概要版でございます。17年10月、1年ちょっと前にお配りしたものでございまして、担当から資料提供がございましたので、お配りをしたものでございます。

最後は、次回開催通知が下に置いてあります。

配付資料は以上です。

○小竹アドバイザー 皆さん、お手元にそろっていらっしゃいますでしょうか。

では、次に行きたいと思いますが、前回の委員会の要望についてのご返答をお願いしたいんですが。

○渡辺幹事長 事務局からお答えいたします。大きく2点ございましたので、それについてでございます。

1点目、職員の積極的な議論参加の提言をいただきました。こちらにつきましては、市民会議の趣旨と当初の考えを大きく変えることになるために、職員は議論に加わらないことが原則であるという形は前回お答えしておりますけれども、質疑に対する受け答えの中では、一定程度発言することはもちろん許容範囲であると考えております。そういった形での質疑にはお答えをしていきたいと思っています。ただ、やはり今回の市民会議というものは、市民の皆さんのご意見をお聞きするために市長が開催した会議でございますので、

そういったご趣旨をご理解いただければと思っております。

2点目は他分野への意見を伝える件につきましてですけれども、これらにつきましては、意見を文書でお預かりいたしまして、他分野の事務局を通して渡す形ですと対応は可能でございます。しかしながら、受け取った後の取り扱いはそれぞれの分野の委員さん次第となりますので、そここのところはご承知おきいただければと思います。

以上です。

○小竹アドバイザー ただいまのお話につきまして、何かご質問、ご意見ございましたら、お願いいたします。——よろしゅうございますか。

それでは、議事に入る前に、きょうは企画調整課の方から山本様においでいただきお礼をしまして、私どもの分野もきょうから新しい局面に入るわけで、他分野の方がどのように進捗されているか、短くまとめてお話しいただければと思います。

○山本企画調整課長 皆さん、こんばんは。説明会以来のお目にかかることとなります企画調整課長の山本と申します。どうぞよろしく申し上げます。

きょうは簡単に他分野の方がどうなっているかということをご説明に上がりました。

特にすごく進んでいるということはございませんで、皆さんやはり1～3回ぐらいまでは方向性とかやり方がわからないで、大分混乱されているような状況ではございましたが、こここのところへ来まして、少し方向性というか会議の進め方が大体まとまってきて、実質的な議論に入り始めたのかなという印象を受けております。

私は行・財政の分野に出ておりますので、行・財政の分野のことは一応把握しておりますが、あとほかの部分につきましては企画調整課の職員が必ず1名参加しておりますので、その職員を通じての話、また聞きということになってしまっていて大変恐縮ですけれども、簡単にどんなことをやっているかを申し述べさせていただきたいと思っております。

健康・福祉の分野については、やはり3回ぐらいまではずっと会議のやり方等をした後に、話すテーマを高齢と障害と健康と地域福祉という基本的な福祉の4つの分野に分けて、それぞれ話を進めていくということで、高齢の部分の話合いが一応一段落してございます。その後、やはり福祉施設でございますので、市内の福祉施設を視察に行こうということになりまして、全員でということではなくて、3つの小グループに分かれまして、コースを3つ設定して、それぞれどこへ行きたいというふうに決めて、施設見学に、これは11月27日と28日に行ってきたということです。これから先は、障害、健康、地域福祉という順番で議論をしていく。1回ごとにそれぞれ1つのテーマごとに、だいたい皆さ

んが話し合ったことはきちんと整理していくという進め方をしておられます。

それから、子ども・教育の分野につきましては、最初に子どもの方の施策につきまして行政の方から説明をいたしまして、それに対する質疑応答がございました。その後、委員さんの間での議論が行われて、教育の方の施策のご説明をさせていただいて、前回、また行政側との質疑がございました。また、次回からは教育について市民の皆様同士の議論が深まっていくというふうに考えております。

それから、都市基盤の分野でございますけれども、こちらの方のやり方は、ほかの分野とちょっと違っていています。ここと似ているのかもしれませんが、3つのグループ分けをいたします。3つのグループに分かれて、それぞれワークショップ形式という形になるかと思いますが、それぞれのテーマに従って議論をして、グループの中で一定話がまとまったものについて、今度全体の皆さんの前で説明をして、また意見をいただくというようなワークショップ形式でやっております。

それから、行・財政の分野でございますけれども、こちらの方はブレインストーミングというやり方を3回ぐらい前、11月13日から始めました。これも委員のご提案でやり始めたのですが、皆さんが思っていることを一言ずつ、何々についてこうしたいというのを1人1つずつ、ずっと1周言ってもらって、また1人1つずつ言っていく形。言いたいことがなくなった人はパスとあって、ずっと回して行って、最終的にだれもいなくなるまで全部意見をいっていきというやり方をしまして、たくさん項目が出ました。それをまた市民委員の方が取りまとめをいただくということになって、市民委員の方でそれを行政の分野、財政の分野ということで項目立てをして、一覧表にしました。今後はそれをもとにさらに議論を深めていって、細かい項目もございまして、それをもう少し大きくくくって行って、最終的に幾つかの提言にまとめていこうということでございます。

ということで、大体5つの分野、このような形でこのような形で現在進行しているところでございます。

○小竹アドバイザー 他の分野の進行状況をご報告いただきましたけれども、これはご質問とかいうことはなくてよろしいですか。もし何かありましたら、企画調整課からおいでいただいているので。――特にないようでしたら、これで前に進めさせていただきたいと思います。山本課長、どうもありがとうございました。

それでは次に、傍聴人の方のご入場。本日3名ということですので、お入りいただきました

いと思います。

〔傍聴人、着席〕（後でもう1名入場あり。）

2. 議 事

○小竹アドバイザー それでは、傍聴の方がご入場されましたので、議事を進めたいと思います。

これからは、前回決めさせていただきましたテーマ別の責任者の方のグループに進行役を引き継いでいただきまして、皆さんの議論を深めていただきたいと思います。では、本日は皆川委員が進行役ということでよろしく申し上げます。

発言に関しましては、プレートを立てることでやっていくことにいたしましょう。

○皆川委員 それでは、よろしく申し上げます。

何せ第1回でもありまして、また不慣れなものでございますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

議事を始める前に、2、3、お話ししておきたいことがございます。

第1点は、本日から各グループに分かれてやるわけですが、各グループ、それぞれ人員が決まったわけです。初顔合わせもやりたい。議事の進め方も協議したいというようなご要望もありまして、なるほどそうだろうと私、思います。議論の時間はなるべく効率的にやりまして、その時間を設けたい。したがって、終了時間は早目にしたい、このように思っていますので、よろしく申し上げます。

それから、大半の方は、前回の4回の議事の内容をまとめたものがございますので、それから既に西園寺さんのところを経由して皆さんからの意見なども出ておりますので、若干出しておられない方もおられますが、そんなことでかなり効率的にできるんじゃないのかな、こんなふうに考えておりますので、そんなことで進めていきたいと思っております。

それから、せっかくこうして市民の集まりでもありますので、名前を呼び出すとき、何々委員、あるいは小竹先生のように何々様というのはちょっと慣れないなと思いますので、何々さんと、気安い形でいくために、そんな言葉を使いたいと思っています。

それでは、まず議事に入ります。

先ほど、資料の説明がございましたが、右上の方に「その1」とありますのは、皆さんから出していただいたものを要約したものでございます。なお、詳細なものはもちろん手元でございます。しかも、項目ごとになっていますので、ひとつ見られて、いやここは違

う、私はこう言っているということがありましたら、後ほどお願いしたいと思います。

もう1つ、第4回市民会議、ここの会議で提言・意見というものが出ておるわけです。ここにもありますように、質問された内容については出ていませんが、提言した内容をコンパクトにまとめています。そこで、判断しながら書いたものもございまして、いやこれは違うよということがありましたら、後ほどご発言方お願いいたします。

それから、プレイスの問題ですが、我々3名のテーマではあるのですが、前回の第5回会議で出まして、その意見と、皆さんから書面で出していただいたものをまとめまして、しかもこれは時間的な関係、ご承知のように、前回議論しましたように、専門家会議でもうやっておるわけですから、そこでそれらをまとめまして、提言という形で、私のこの下手な字で出していますので、これからまず入りたい。

これは、下にもありますように専門家会議と、市長の方にも提案した方がいいんじゃないかと思ひまして、こんな形でまとめてみました。いやこれはもうちょっとこうしてほしいということがありましたら、専門家会議に出す資料ですので、文章表現も含めてご提案いただければ、このように思います。

したがって、このプレイスの問題から先に入りまして、あとはそれぞれの項目に従って進めていきたい、こう思いますので、よろしくご協力のほどお願いします。

それではよろしゅうございますね。

○栗原委員 「緑・環境・市民生活分野会議 第3グループ項目整理—その1—」の裏に誤植が1カ所あります。今のお話にあった「☆武蔵野プレイスについて」というところの一番下の方ですが、「市民生活」の右側の4行目に「『不安』との意見も」と書いてありますが、これは僕が手書きでお出ししたので間違えたのだと思いますが、これは「不要」です。

○皆川委員 それでは、プレイスの方に入ります。

簡単なものですから、表題の方は略しまして、読み上げてみます。「市民会議 第三分野一同」という形で出したい、こう思っております。

新公共施設武蔵野プレイス（仮称）の建設について

ご既承のとおり、武蔵野市第四期長期計画調整計画第三分野（緑・環境・市民生活）では、調整計画策定委員会にむけて提言をまとめているところであります。そこで、表記については貴会議で検討されていると承っていますので、当市民会議でも議

論をし、意見集約しましたことを下記のとおりお知らせします。

なお、市民会議第三分野担当者 名の総意見であることをご勘案され、貴会議の答申にあたって、十分反映していただけますよう切にお願い申し上げます。

記

1. 施設の機能面を生かしつつも、他の現有市民施設、人口等武蔵野市勢、交通便利な地勢、将来の市財政事情などを勘案し、可能なかぎりコンパクトな建築物にする。
2. 施設周辺は緑で覆い、環境、災害時活用等に配慮する。

というようなことで、大体第5回の論議、それから皆さんからかなり鮮明に出されておりますが、そういったものの概要をまとめまして、この1、2項で出していきたい、こう思います。

これは下にもありますように、専門家会議あてと、写しとして市長あてに提出しては、このように思いますので、まずこの点についてご意見などございましたら、よろしく願います。それではどうぞ。

何せ時間がなかったものですから、十分説明などもできずに、タイミングが大事だと思いますので、できましたら年内にまとめて整理しまして、提出していきたい、このように思います。

願っているのは、せっかく市民会議をこうしてやっておるわけですし、しかも大半の方のご意見がこういう形でありますので、よろしく願います。

ただ、テナントなども入れながら、商売も考えながらもっと立派なものをというご意見を出されておる方もおるわけです。その方以外は、大体ここに集約されるのではないかと、こう思いますので、ひとつご意見がございましたら。

○島田委員 その1人が私。ここに書いてある少数意見ですが、駅前の利便性のため、駐車場をきちんと整備し、建築基準法いっぱい建てて、商業テナントを入れるというのは私の意見。今、1人というのでびっくりしてしまっただけですが、私もよくわからない、武蔵野プレイスというものを。ただ駅前にあるということ単純に考えまして、坪にすると幾らかなと思ひまして、だったら三鷹駅のああいう駅ビルみたいにすばらしいのが建って、あれで随分財政が豊かになるのではないかなという考えがありまして。

あと、今、車の件が出ましたけれども、今、道路に停めるということは、宅急便でさえ2人乗ってこないと停められないという状況があります。ああいう駅前だからこそ、行っ

て停めるところが全然ないんです。駐車ではなくて停車もできない状況にあるので、できればそれを有料化でもして、財政を少しでも武蔵野市に貢献できればいいなと思って。最近盛んに夕張市の破綻がどうも目についてしょうがないのです。それは緑があって、すばらしい環境の、コンパクトにしてというのは確かにすばらしい意見だとは思いますが、それで武蔵野市が成り立っていくのであれば、私は公園であろうと何であろうとすごく賛成するのです。ただ、夕張の破綻で健康保険料が幾らに上がって、学校がなくなり、保育園がなくなりという破綻ということがどうもこのごろのテレビで目につくので、少しでも財政を豊かにするためにテナントでも入れて、少し財源を豊かにしたらいいんじゃないかなという発想で、私は、せっかくつくるビルなら、建築基準法いっぱい建てて、周りに余り住宅がないので、余り影響がないんじゃないかなという単純な発想から、それ書きました。

こういうのを見ると、確か緑が多いとすごくいいですよ。ただ、財政だけが心配であって、財政がオーケーであれば、もちろん賛成なんです。

○久木野委員 財政ということでいえば、一番最初の建築費を下げるということがまず第一に財政に貢献する。

2つ目は、大きな建物を建てた場合のメンテナンス。今、大体の試算が1日100万。年に3億7000万となっていますので、まず小さくして、メンテナンスの日々の費用を削ることが、まず市の財政に貢献する第一だと思います。テナントとかそういうことで埋め合わせできるものではありません。

しかも、地下3階に駐車場を32台も建てるのです。もちろん障害者用とか荷さばき用は必要かもしれませんが、地下3階というのは、地上に建てるよりもずっとずっと建築費がかかるのです。そして、しかも地下3階というのは水脈や何かの心配があります。そういうことを考えれば、一番下の地下3階の駐車場をなくすことが、財政に一番貢献できるということだと思います。

そして、これからは中央線が立体交差化になりますね。そうしますと、スイングとの連携とか他地域、もちろん中央から、吉祥寺も含めて他地域との連携をとりながら、その施設を生かしていくということがより有効な方法であって、ハードの部分を充実させるというよりは、これからの高齢化社会も含めて、少子化社会も含めて、ソフトな部分を充実していくことが大切ではないかと思います。

○谷委員 前回、前々回と仕事の都合でなかなか来れなくて、プレイスの話は聞いていま

せんので、基本的にはまだ。もしわかる方があったら教えていただきたいのですが、図書室ですとか図書コーナーとか対面朗読室と書いてあるんですけど、中央図書館でうちの家内が朗読ボランティアをやっているのです。録音室が、多分中央図書館しかないと思うんですけど、1つしかありませんで、自分が作業しようとする、日程をとるのに大変苦労しているんです。

ぜひこういう視覚障害者に本を読んで聞かせたり、テープをとって普及したりというところでいえば、今せっかくつくるのであれば、防音スタジオで立派なものがあるのであれば、1つぐらいは録音できるスタジオをぜひつくっていただきたい。このごろはそれに応募する方も随分多いのです。朗読ボランティアに参加しようという人たちがふえてきていて、だれでもいつ目が見えなくなるかわからないということがあり得るわけで、本とか新聞をちゃんと読みたいという方に、せっかくボランティアをやってくれる人が多いとすれば、こういう施設にもそういうものをちゃんとつくっていただいて、長期的にも使えるようにしていただければ大変助かるなど。もし意見に盛り込んでいただけるのであれば、ぜひ盛り込んでいただきたい。

○皆川委員 そのほかはどうでしょうか。

○西園寺委員 今回の文案の一番最後のところに「災害時活用等に配慮する」という文言を入れていただきまして、これは私がそう思っていたことなので、ありがたく思っているのですが、今までプレイスの専門家会議を聞きに行っても、災害時の活用ということに全く触れられていなくて、私はちょっとびっくりしているのです。駅前で大震災があった場合には、あの場所は物すごく大切な場所になるだろうと思うし、そのためのある程度のスペース、給水所のようなスペースがあったら絶対いいと思うのですが、それに触れていないのは、逆にとても驚いているような次第なんですけれども、ぜひこういうことを考えてもらいたいなど。都心から歩いて帰ってきたり、電車がまばらに通ったようなときに休む場所が絶対必要じゃないかなと思っています。

○富川委員 私もこの武蔵野プレイスの基本計画というのは全く知らないのですが、このまとめたものを見ますと、「武蔵野プレイスについて」の2番目に、「計画決定プロセスに市民参加が乏しい」というのがあるのですが、これは皆川さんのまとめたものの中には入っていないのですが、このあたり、市民参加は今さら市との協働で計画の練り直しをということは不可能なんですか。それともまだ可能な範囲なんですか。

○皆川委員 よく理解できなかったのですが、市民参加が……。

○富川委員 乏しいというのがまとめに入っていますね。その案として「市民参加、市との協働で計画の練り直しを」というのがレジュメの中に書いていますけれども、皆川さんのまとめたものの中には、市民参加で計画の練り直しをというのが入っていませんけれども、これは不可能だから、ここに入れないということなんでしょうか。

○栗原委員 そうではありませんで、プレイスについてのご説明があった前々回の議論、それはまだ私たちのところに議事録として回ってきていないのですけれども、その中ではプロセスとして市民参加がなかった、やっぱり市民参加でもう一回お願いしたいという意見がありましたし、今回集めた皆さんのご意見の中にも市民参加は不十分だったから、もう一遍市民参加で見直しをというご意見もありました。

それが可能かどうかということなんです、それはそういう方向に提言したいというふうに例えばこの会でまとまれば、そういう提言をすればいいと思うのです。そこから先は、もう一遍市民参加でと働きかける力が強ければ、そういう流れになっていくでしょうし、そうでなければ違う流れになるかなと考えております。

○富川委員 前回の討議の中でも、専門委員会が既にかなり走っているということで、ここでの議論がもう遅いんじゃないかというのが何回かの議論の中にあったものですから、そのところをちょっと確認したかったのです。まだ可能だと考えてよろしいわけですね。そういう方向に持っていくということで。

○皆川委員 まだ終わったとは聞いていませんので。途中であるということですので。

○富川委員 そうですか。

○渡部委員 練り直しについては、白紙というのも考えられるのでしょうか。

○皆川委員 それはここでの意見ですから。

○栗原委員 皆さんから集まったご意見の中には、さっき訂正しましたように、要らないというご意見もありました。要らないということは白紙ということです。ですから、選択肢の中にはもちろんあるんだと思うのです。ではこの総意として白紙にしてくださいと出すかどうかというのは、白紙にしてくれというご意見は一部意見としてあるわけですから、それはここで話し合わなければ結論は出せないというふうに思います。

○河田委員 ただいまの白紙の問題もそうですけれども、とにかくこの会では、まとめにあるように、一般の市民の参加、市との協働で計画の練り直しをして計画決定のプロセスに市民参加が乏しいのではなくて、豊富というか市民参加した上で計画決定してくださいというのを、この会議で議決して提議することは一向に可能だと思います。それができる、

できないというのは全く別の問題、次の問題ではないか、そういうふうに理解します。

○皆川委員 市民参加については、先般の説明の中にもありましたように、また第4回会議のときの資料にもありますが、境南地区を初め、コミセンなりでもう既にやっておるわけです。ですから、そういう場を踏まえて、それで専門家会議をこの7月に立ち上げたということでございますので、当然そういった手順をもう踏んでいると。

そこに合わせて、我々こうして市民代表者で、しかも市民生活部門を議論する我々の意見をさらに追加して反映しておく、これは意義のあることだと思いますので、そこで時間の関係もでございますので、谷さんがいわれたような、ああいったボランティアも、実は中央図書館などではもう既にやっておるわけです。そういうことでもありますので、そういう意見もあるということ言葉を中で表現しながら、それから先ほど島田さんの方からいわれたようなことも含めて、ひとつこんな形で提言していきたいと。

要は、全体の意見としては、渡部さんはもう確かに白紙にしたらとはっきり出ているのです。なるほどそうだなという感じもしますが、今までの経過も踏まえながら、しかも、20年この方論議している経過ということも踏まえて、この辺が我々として落としどころかな、こんなふうに考えますので、文案については我々3名にお任せ方お願いいたします。よろしいですか。

○石川委員 案をつくっていただいて、ご苦労さまでした。

確かに、白紙にしてというのがあるかもしれませんが、計画からいくと、59億かけるという原案があつて、それは議会で決議されて、設計に入っていくという段階だったはずなんです。それをはっきりいえば邑上市長が、候補の時代に、それはちょっと高いから見直したいという公約を掲げて出たから、彼はことしの予算をもう一回見直すということで59億を13億減らして46億ぐらいのものにしたいというのを出して、それが結局議会で否決された。予算が通らない2カ月暫定予算を組まれたわけですから。その結果、専門家会議というのを開くことになって、一応白紙に戻すというのは、原案に戻して、それを前提にしながら専門家会議は検討する、たしかこうなっていたと思うのです。

今は要するに間接民主主義ですから、議会というのはそういう決定権があつて、そういう中で過程を経てきている。だけれども、59億という形そのままで行くというのは、やっぱり余りにも金がかかり過ぎじゃないか、そういうことでできるだけ見直ししたらいいんじゃないだろうかという意見も随分あるわけです。

地元が中心になったときは、たしか6000名ぐらいの人は、その原案をそのまま通して

くれという請願も出して、それが採択されているという事実もあるわけです。

ですから、確かにプロセスを抜きにして白紙ということはあるかもしれませんが、今はもっと現実的に、こういう意見が出て、早く専門家の方にもこういうことで見直してほしいというのが、私は現実的だと思います。

ただ、私はちょっと経費の面は、今久木野さんがいわれましたけれども、59 億という建設費ともう1つ、3億7000万、1日100万かかるという維持費の問題があるわけです。今、16コミセンがありますけれども、この16コミセン全部の年間の維持費が、補修費や何かも全部入れて、たしか3億7000万ぐらいだと思います。そこまでいっていないかもしれませんが、80万人ぐらいの人がたしか利用している。そういうものから比べてこういう1館にそんな金をかけるというのは、やっぱりバランスを欠くのではないかということなので、維持費についても、もう少し効率的にやる。

これはコンパクトな建物にする、こうなっていますけれども、これはこうすることによって建設費は安くなるかもしれませんが、その維持費なんかについてもこの表現の中で理解されるかどうかなんですけどね。私はだから建設費の問題と、もう1つは維持費をできるだけかけないで効率的にやると。

私が提案したのは、専門家の人というのは常駐ということよりも、むしろ非常勤の専門家とか、維持といいますか、そういうことについてはできるだけ有償のボランティアを使う。できるだけ地元の人たちがこういうものをつくってほしいということであれば、自分たちもそういうことに参加するという意味でできるだけ経費も安く、効率よくやるということをちょっと書いたつもりなんですけど、その維持費の問題がこれに入っていないので、その辺がどうかという気がするのですが。

○久木野委員 その「記」という下の1、2についてなんですけど、皆川さんに書いていただいて、これから少しずつ直しながら、また皆川さんに書いていただくということについてなんですけど、プレイスの件に関しては、やはり栗原さんが一番詳しいのではないかと思いますので、栗原さんに原文を書いていただいて、あと上月さんと皆川さんに監修をしていただく。全体的な見直し、言葉遣いや何かの総点検をしていただく。その方がより適切ではないかなと思いますけど、いかがでしょうか。

○皆川委員 それは任せてください。

○白石委員 私は環境の面からいろいろと書かせていただきました。その1つに駐車場の件を書きましたけれども、できるだけ最小限にという表現の仕方になっているのですが、

最小限というのはどういう意味なのか。建物の地下にはつくらないでほしい、そういうことで建築費を安くするということをご考慮いただきたい、その意味が1つあります。

それから、環境という面で、ここに冷暖房、光熱費というのがありますが、老婆心ながらと思いますけれど、建物が大きくなればなるほど、おのずとそういう意味での維持費がかかります。そこで、ここではどのくらい自然エネルギーの利用とか、今、照明なんかも、太陽光を非常にうまく取り入れた照明があるようですけれども、それと緑化の問題。屋上緑化なのか壁面緑化なのか、太陽光発電なのか、そういう意味ではできるだけ自然を活用したものにして、経費のかからないようなご検討をいただきたいと思っております。

○新垣委員 この計画案のもともとの駐車場は43台で、自転車の駐輪が150台ということで検討されておりますが、白石さんとは別に下に掘っても構いませんけれども、私の意見でいきますと最小限、運搬用のものと最低4～5台障害者のための駐車場ぐらいはあってもいい。43台は不要だということと、ここに書いてあるように、交通便利な地勢ということであれば、あえて車に乗ってきて、長期に使うわけです。そうすると43台分を何台にするかということも含めて考えなくてはいけないし、今、あそこが駐輪場になって、あそこに大変な数の自転車がとまっておるわけですけれども、これはいずれ追放されて、どこに行くのかということとあわせて、150台という数がいかにも図書館の利用台数としては少ないということを含めて、その辺のことも少し具体的に出しておかないと、今のこのアバウトな書き方だと、検討の素材にならないと思う。別表でまとめられたような格好で少し具体的に問題指摘もしておいてほしいなというのが1つ。

それから、この議論の中で、あそこの緑のスペースがどうあるべきか、それをどう生かしていくか、それをどう保持していくかという議論については、ほとんどなされていないし、建物の屋上緑化問題についても、一部の意見としてはあったとしても、それは正面から議論をとらえているわけではない。それから、高齢化社会に進む中で、1階から4階まで歩いて、とにかくぐるぐる回って、一番上に雑誌コーナーがあつてなどというところに、悠長にあれを利用しようとするお年寄りがたくさんいるんだらうかということも考えたら、階も減らして、もうちょっと図書機能も他のところのネットも含めてきちんとした機能を持たせるということで考え直していかないと、実勢に合わない。

あそこを利用する人たちは若者ではなくて、武蔵野市の人口構成からいけば、かなり高齢者の方が多くなると思うのです。そういうことも考えたら、1階から4階まで歩いて、そこで雑誌を見たり新聞を読んだりという風景は、私は余り目にも浮かばないので、

そういうことも含めて少し具体的にこの整理をしていただけないかと要望いたします。

○皆川委員 それではこの辺で、時間の関係もございますので。もう時間のこともありませんから。

○久木野委員 済みません、すぐ終わりますから。

この大型のものをつくらないでほしいということの大前提としましては、やはり地球温暖化のことにぜひ触れてほしいと思うんです。これだけの異常気象が始まって、今さらそういう建物を建てることの意味があるのかどうか。できるだけそれに貢献しない方向でいてほしい、そういうことを思います。

○皆川委員 この辺でひとつ、河田さん。

○河田委員 議事の進め方について、皆川さんはどうのご見解か知らぬけれども、とにかく皆川私案が出されて、まあ時間切れだから、あとは私に任せてくださいというどこかの審議会みたいなことは、ひとつこの会議ではやめることにしましょう。みんながそうだとかならずくようなものでなければ、僕は皆川さんがせっかく書いてくれたというんだけど、全部書き直してもらっても結構だと思います。

それから、せっかく3人そこに並んでいらっしゃるんだから、3人の中で十分練られたかどうかということも私は何う必要もあるし、下書きを書く人の役割をかえてもいいという委員の発言もありました。とにかく時間切れだから、これであとは任せてくださいというやり方だけは、ひとつこの会では避けましょう。とことん議論しましょう。そういうことです。

○小竹アドバイザー 前回の会議のときには、このプレイスに関しましては、きょう市民生活1のテーマに非常に密接に食い込んでいるので、市民生活の中のコミュニティのあり方も含めてやろうということで、こっちに差し戻したのです。

最初は、1月の最初の回でやってもいいかという話もありましたので、スケジュール的にはそれでまだいいかなとは思いますが、いかがですか栗原委員、たしか前回そういう予定をおっしゃっていただきましたね。

○栗原委員 僕は河田さんのご意見に賛成で、きちんと話し合っただけでやるのがいいと思います。

組み立てですけれども、皆川さんの書いてくださったこれが1つの核みたいなものとしてあって、先ほどからいろんな方がおっしゃっている内容が、これとは別紙でも構わないのですけれども、要は専門家会議の人たちに、今市民会議は動いているよ、長期計画の見

直しという形で市民会議が動いています、そことあなたたちの検討していることはリンクしているんですよということがまず伝わるのが1点。

もう1点は、先ほどから議論がありますように、専門家会議の皆さんたちが検討していらっしゃるんですが、我々、緑・環境・市民生活の分野の委員からは見えるよ、こういうことをあなたたちは加味して検討されていませんよねというところを具体的な形で伝えることが僕は大事なのかなと、今の時点で思っているのです。

それに河田さんの意見を加えると、もう一度核になる部分と、別表でも別紙でもいいのですけれども、項目をダーッと立てる部分と2枚にして、1月9日にもう一度検討するという形でもいいかなというふうに思っています。

そうだとすると、この会の中で、こういうことは考えておかなきゃいけないということは、出せるものはぜひ全部出していただいて、項目として盛り込めるようにしたいと思っています。

僕の意見は以上です。

○小竹アドバイザー アドバイザーとしてなんですが、そうしますと、ただ今回、きょうこの話題をやろうということは、次回は市民生活2を中心に議論したいからということも勘案してのことでしたので、その辺ちょっと手順を、あるいは冬休み中の宿題を出すとか。そういうことを段取りよくしておかないと、次回の市民生活2の方も食い込んできますので、お時間をほんのちょっと割いて、冬休みの段取りをお決めになったらいかがでしょう。

例えば、きょう出たことをメモされていますので、細かい、先ほど新垣さんから出ました別表というところあたり、かなり詰めて書けると思うのですが。

今度ちょっと日があきますので、それは休み中に郵送はできますね。

○渡辺幹事長 はい、こちらがあいている時間でしたら。

○小竹アドバイザー 郵送していただいて、それに関する意見をまた西園寺さん経由で集約するというふうにしてはいかがでしょうか。

○皆川委員 それじゃ、その辺を考えてみましょうか。

ただ、これは第5回で私、発言しましたように、専門家会議が設けられているわけです。それで十二分にこの問題については、市民の意向もそれこそ右から左に至るまでいろいろあるわけですから、そこの中でひとつ武蔵野市らしくまとめてもらいたいということであって、私は余り細かいことまでどうこうと、ここが専門家会議ではないんですから、そういうふうに考えています。

それでは、皆さんから「記」以下のことについても、あるいはその前段についても結構ですので、こんな形でやったらどうだというご意見ございましたら、むしろ書面にさせていただいて、西園寺さん経由がいいか、あなたのところがいいか、どうですか。

○栗原委員 私、情報弱者なものですから、西園寺さんのところの方がいいかと。

○上月委員 私はいいですよ、ファクスであれば私、受けます。

○西園寺委員 小竹先生と栗原さんの話を聞いて、私なりにイメージすることは、きょうの今まで1時間話した内容がリストアップされていますね。それを栗原さんにある程度文章化してもらおう。大きな要請文のほかに別表がつくような形ですね。それを栗原さんが年内とかにおできになるかどうかわからないけど……。

○栗原委員 1週間でやります。

○西園寺委員 でき上がったら事務局から全員に郵送してもらおう。そうすると、お正月明けくらいに皆さんの手元に届くから、それを読んだ感想を私のところにまた送っていただく。そうすると、それをまとめたものを1月9日にここに出せる、そういう手順でいかがですか。

○小竹アドバイザー もうワンランク早めた方が、早く先方に出せますけど。1月9日の段階である程度まとまっても、それであとは3人にお任せしますので出してくださいという形になれますか。そうしますと、栗原さんに今週中ぐらいにまとめていただいて、ことし中ぐらいに事務局から各お宅に送っていただきまして、9日までの間に事前に出しておいてもらって、栗原委員に手直しをしてもらったものを出すという方が、日数的にはいいのではないかと思います。9日に大枠で決まったら、誤字脱字とか、清書をして先方にお出しするというふうにしたらいかがでしょうか。

じゃ宿題がいっぱいになりますけれども、それでよろしくお願いします。

○久木野委員 専門家会議があるからそちらにお任せというんじゃなくて、専門家会議を動かすぐらいのつもりで、これはやはりまとめていただきたい、そう思います。

○新垣委員 皆川さんに逆らって申しわけないんですが、非常に気になるのは、専門家会議に4項目の諮問があるんですが、その4項目の諮問それ自身が非常に既定前提に沿って設けられたもので、市民の意見を反映しやすく設問されていないというのがまず非常に不満があるのと、4項目に絞り込んだだけでいいのかという問題もあるんです。

ですから、専門家会議でやるということについて形式的にそれを認めてしまえば、そのまま議会の趨勢のとおりになるという事になりますから、そのところをきち

んと整理して、専門家会議の専門家の皆さんが改めてもう一回自分たちの足元を見つめ直してご議論いただくということを、ここで上位段階のこの市民会議の意見としてぶつけるということが重要だ、こう思っています。

○皆川委員 それでは、今小竹先生から話があったような形で、今後進めていきますので。

皆さんも大変だと思いますが、ひとつ自分はこの書面にしてほしいというものを書いていただいて、西園寺さんの方に出していただく。栗原さんが書きますか。それを訂正してもらうということに。西園寺さんがいうように、1週間で。

○栗原委員 さっきの話ですと、1週間でというのは、ここで出た各項目、こういうことについても専門家の会議できちんと考えて検討してほしい、そういうことについて、さっきの表現でいえば別表の方について、私が整理するというふうにお話ししました。こちらの文面も、あわせて原案を。（「心を動かすような文章を書いて」と呼ぶ者あり）僕、おります。（笑）

○小竹アドバイザー 先ほどどなたかがおっしゃいましたけれども、今の専門家会議は、ある専門家として本当に専門的に取り組まれている委員会ですけれども、別の見方をすれば抜けているよということをこの会議でいうわけですから、やはり私たちの分野の緑・環境・市民生活ということのニュアンスをすごく強めてこっちのメスの入れ方もありますというような文章体系にしないと、逆に出す意味がないと思うので、それをよろしくお願ひしたいと思います。

○栗原委員 課題が難しくなる一方なので、皆さんも、課題をこなす人がどのようにやるかということをお考えの上でご提案いただきたいと思います。僕もご意見は賛成です。私たちは緑・環境・市民生活の分野でありますから、もちろん財政的な問題もある、市民参加がないという問題もある、ガンガン言いたいですがけれども、基本的にはそこは抑えた上で、緑・環境・市民生活の分野としてこういうことを、あなたたちちゃんと検討してください、それで答申に反映させてくれというふうについていくのがいいかなと思っていますので、一応そのつもりでまとめてみます。皆さんのご意見をお待ちしております。

○皆川委員 大変不慣れな司会で、どうも申しわけございません。そんなことで、これはもう一度やり直しということで進めていきたい。

それでは、もう時間の関係もありますので、その他のことにつきまして、実はもう1つの、こちらから配りました「第4回市民会議 市民生活1での提言・意見概要」ということで、この前の議事録の中を整理して、こんなまとめ方をしておりますが、いやこの辺は

違うよというようなことがあれば、ひとつ出していただきたい。これも当然概要のまとめにしてありますので。それに栗原さんにまとめていただいたこちらも加味しながら、我々でまとめまして、いずれほかのグループも終わった段階で提言をまとめなくちゃいかぬわけです。その場に出すようにしていきたい、このように考えています。

本来なら全員に発言ということもあるかと思いますが、既にこういった資料が出ておりますし、皆さん方もいろいろメモっていただいてもおりますので、それにちょっといい足りない、もう1つこの辺を追加したいというようなことがあれば、発言していただくというところでお願いいたします。

○河田委員 順番に1つずつ、これでいいですか、どうですかと話を聞いて、異議がなかったら採択していくということで。

○皆川委員 速攻でやりますか。

○河田委員 そうしないと決まらないでしょう。時間がかかったら何回でもやっていい。

○栗原委員 前回の確認では、コミュニティの課題が非常に基本になる。あらゆる分野にかかわってくる課題だから、コミュニティの課題を先にしようというお話だったと思います。ですから、お寄せいただいた意見の中の市民生活1にかかわりのない部分は、ごめんなさい、全然まとめておりませんが、かかわりのある部分であっても、コミュニティという課題と、そうでない課題と、いろいろあると思います。男女共同参画とか国際交流とかも大事な課題ですが、基本的にきょうはコミュニティの部分について、コミュニティのことをこれからどう考えていくのか、何をベースに考えていくのかというあたりをこの会議で話し合えれば、その先につながるかなというふうには思っています。

○西園寺委員 先日配られたこれがあります。きょうの分野は36ページから、きょうのエリアは40ページまでなんです。それが市民生活1なんです。

だから、進め方としては、簡単に言うところの31011から順繰りにやっていく。最初がコミセンのことですから、それに当然時間がかかるけれど、順番どおりにいくと、31417の「稽古・発表の場の確保」というところまで一通りはカバーしていかなければいけないのが、この会議の任務だと思います。そういう進め方をした方がよろしいんじゃないでしょうか。

私はこういうふうの色をつけました。市民生活1はここからここまで、2はここからここまで、環境はここで、ちょっとだけ飛んでいるところもある。緑は緑色、環境も色で分かれています。

○栗原委員 若干お金がかかりますけれども、関係あるところだけコピーされると、持ち運びが楽ですよ。

○小竹アドバイザー きょう事前にほかの委員の方に連絡をとれなかったので、私はメモ程度に項目立てだけをエクセルに入れたものを持ってきましたので、今コピーで配っていただきます。これ、バサバサするのが大変なんです。

○河田委員 長期計画の実施状況ということで、この長期計画そのものとどういう関係があるかというのは、後ろの方の表でもって矢印とか何かで出ているんでしょうけれども、それをこういうふうに落とし込むだけでいいのかというのが、実はあるんです。これ自身は本当に武蔵野市政というか、市役所のあり方としていいのかというのがあって、僕はやっぱりこの本文そのものが本当にこれでいいのかというところへ戻らないと、ここだけやってもというのは、ちょっとという気がするんですけども、その辺、皆さんどうですか。

こっちの方だけやっていて、本文の方が二の次、三の次ではなくて、逆にこれがあってこれがあるわけです。これのとおりにはやっていないというなら、どこかの部署がちゃんとしていないということになったり、あるいはここに書いていないことを勝手にやったり、これは実際、本当に1つ1つ検証してみなきゃわからぬことだと僕は思う。今、資料が来るまでの間ですが、私の疑問を申し上げたかったのは、そこなんです。これはあくまでも現在やっている施策というか業務、事業の評価書でしかないんじゃないかという気がするんです。

○皆川委員 確かにそうですね。

○新垣委員 文章でご提出をさせていただいておりますが、コミュニティセンターだけに限って言えば、長期構想と施策の大綱の前半には、コミュニティセンターについてのイメージはそれなりに出ております。施策の大綱の第1項目は、長期計画そのものでありますし、第2項についてはNPO関連の問題であります。

それで長期構想と施策の大綱にどうマッチするのかということが一切見えない計画になっております。結果としては、コミュニティセンターの再構築というのが表の一番後ろに出ておるわけです。今、何をしなきゃいけないかというのは、コミュニティセンターをどう評価して、どう再構築するかということが問題であって、評価委員会で何をするとかどれをするとか、透明性を高めるとかということが問題ではないにもかかわらず、長期計画はそれが主としてマル・ペケがついておるというところに、コミュニティセンターについての非常に不可解な部分があるんです。

実質的にコミュニティセンターはどうあるべきであって、今どういうふうになっちゃって、本来これからもう一回立ち返るのか、それとも今までであったことについてチャラにして違う組織をつくるのかということについてまで言及しなければ、長期計画というのは立たぬと思うのです。

そういう意味では、長期構想のトータルと、施策の大綱の前半の部分については是認をするのであれば、全く違う計画がそこで出されなければならぬ。そういうふうになるのですが、なぜこの長期計画がこんなものでひとり歩きしているのか、そこが全く理解できないというところを一遍見ていただきたいと思います。

○石川委員 関連して。基本的なことについてちょっと触れさせてもらいたいのですが。

○皆川委員 ちょっと待ってください。先に白石さんから。

○白石委員 私も、今新垣さんがいわれましたように、でも同じかどうかわかりませんが、河田さんも先ほどおっしゃいましたように、この中の本文に書いてあるものと、後ろの施策体系図がどうも一致しないというか、そこら辺のことがどうも理解できなくて、ここは書き直しをする必要があるのかなというふうに思っております。

とりあえず今、そこだけ言わせていただきました。

○石川委員 私も、一応調整計画ということだから、こういう計画があるから、これに基づいて出すものは出すし、この項目にない部分についてももちろん出していいわけです。私はそういう意味で、ここにまとめられたものの31010の「①コミュニティ構想の確認」、これは私だと思っておりますが、ただ「コミュニティ条例の見直し」と書いてあるので、皆さんは内容はちょっとわからないと思うんですが、これは私は逆に31030ということで追加。要するに、この施策、31010、31020という推進体制の整備までしか入っていないんです。そうじゃなくて、3番目に私は施策として書いたのはコミュニティづくり総合的施策の策定という政策なんです。それをここに入れるべきだということで書いたつもりなんです。

それはどういうことかといいますと、それに対して課題をちょっといわせてもらおうと、「快適で住みやすいまちづくりを総合的に効率よく推進する」ということがコミュニティの大事なことですけれども、今の縦割り行政とか縦割りの団体を実際やっていると、我々地域にいても、市からいろいろあれもやれ、これもやれと言ってきますし、それではまずいと。

そこで、コミュニティ条例という基本の条例があるわけです。これにも第1条の目的には「市民と行政の協働による快適で住みよいまちづくりに寄与することを目的とする」、

こう書いてあって、4条に「市の役割」とあるわけです。その「市の役割」は、「市はコミュニティづくりに関する総合的な施策を策定し、実施するものとする」と。市がですよ。市が総合的な施策を策定して実施する、こう書いてあるわけです。2項に「前項の場合において市はコミュニティづくりにおける市民の自主性及び主体性を最大限尊重しなければならない」ということは、要するにこういう施策をつくる時に完全に協働でやるというのがこの条例には入っていないのです。総合的な施策をつくるということは入っているわけです。これをきちんと住民と協働でまずつくるべきじゃないか。それを私は提言したいわけです。それがまず基本になるんじゃないかということなんです。

ですから、この条例も、今の協働で何事もやっていこうということからも陳腐化しているわけです。しかも、総合的な施策をつくるとなっているんですから、その総合施策がないために、地域で実際にいろいろばらばらやっているところがあると思うので、逆にそういう関係者で縦割りを横に串刺して、行政も市民団体も横に串を刺して、それこそこういう問題についての市民会議でもやって総合施策というのはどうなんだろうということを検討すべきじゃないかということなんです。

ですから、これは今いわれたように、基本的な問題だと思うので、これはぜひ入れたらどうかというのが私の考えです。

○白石委員 今、このまとめられた1番が「コミュニティ構想の確認」、それから「コミュニティ条例の見直し（市民と市の協働）」となっておりますが、ここのところは私が出させていただいたものです。

ずっと振り返ってみますと、コミュニティセンターがつくられる前に、コミュニティ構想が出されているわけです。その上でコミュニティセンターがつくられ始めているのですけれども、コミュニティセンターがつくられるときに、そのつくられる地元の市民の皆さんが、コミュニティ構想とは何なのか、コミュニティ構想にうたわれている理念とは何なのかということがどこまで皆さんの中に入ってコミュニティセンターをつくることになったのかというのが、1つとても疑問なんです。

それから、コミュニティセンター条例からコミュニティ条例に変わりました。そのときも、自主三原則といいまして、これは市民参加、市民企画、市民運営の三原則がある中で二十数年コミュニティセンターが運営されてきたわけですけど、その次につくられたものがセンター運営ではなくて、これからはコミュニティだよということで、コミュニティ条例に変わったわけです。その条例をつくる時に、これは市がつくっているものだと思

いますけれど、本来はずっとコミュニティセンターを運営してきた皆さん、ご苦勞されてきた皆さんを加えて、市とともに条例からつくっていくものではなかったのかというふうには私は思っております、これは提案いたしました。

そこで、長計の 47 ページですけれど、右側の下の方に「地域社会とつながりを持てるような仕掛けづくりを研究する」という言葉でくくられているのですが、これは行政側の苦しい書き方ではなかったのかなと。

今、ここまで来てしまいますと、とても大事な自主三原則が、あるときはすごく大事な働きをしながら、その裏では、要するにお互いに交流あるいは情報交換、それから行政も一緒に入って、本来コミュニティとは何なのかという議論ができ切れない。そこにすごく問題があるんじゃないかなというふうには私は感じております。それがこういう言葉になって出ているのかなと思いますが、結局最後のこの体系図等にも、そのこの触れ方がなかなかできなくていいのではないかなというふうな感想を持っております。

意見としては以上です。

○皆川委員 この前にも発言されていますね。

○今木委員 ちょっとうまく言えないんですけども、この長期計画のコミュニティ活動のところにかかわるところで、さっき白石さんもおっしゃいましたけれども、78 ページのコミュニティの活性化とか、後ろの施策の体系図の方でもコミュニティのところに書いてあることというのが、コミュニティ条例から来ていると思うのですけれども、住民が本当に寝食忘れてというぐらい、いつか言いましたけれども、一生懸命やっていることと全然ピントがずれちゃっているという感じがするんです。

私としては、今言った 78 ページと後ろの体系図のところはもう一回練り直して書き直してほしいなと思っています。一生懸命やっている意味がこれではない。透明性とか開放性とか電子コミュニティとか、それしか書いていないんです。私たちはそんなことではなくて、本当にコミュニティづくりを真剣になってやっているのです、そういうことを今具体的には何とはいえませんが、住民の自主的な三原則でやっていくことはとてもいいことだと思うので、もうちょっとこのところを最初から練り直したいという感じです。

武蔵野市には町内会がなくてコミュニティづくり、コミセンを拠点としてやってきたということは、コミュニティ構想のやり方というのは間違いじゃなかったと、この 20 年とか 30 年たって思うんです。ほかのまちから最近になって本当に随分うらやましがられることがあります。

私が感じるのは、よそのまちでは活動家がいろんなNPOを立ち上げたり、いろんな活動をして大きなこともやっている。だけど普通のまちの人は何も知らない。どこのまちということはありませんけど、そういうところが多い中で、武蔵野市の場合是一般の人たちが、まちづくりに随分大勢の人がかかわっているんです。逆にいえばかかわり方が薄いというか、コミュニティセンターを運営することで労力をとられてしまって、深くやっけない、私はその辺にちょっと問題点を感じているので、この間、NPOとか、NPOでなくてもいいんですけども、いろんな団体をうまく取り入れながらまちづくりをしていくことが私は大事だと思っています。

コミュニティ協議会が全部をやっていくのではなくて、いろんな団体がそれぞれやりたいことをやっていて、それをコミュニティ協議会がうまくコーディネートしていくとか、それらの情報提供をしていくとか、まちの中で何が起きているかとか、何が課題かということを提供していく、そういうことが私は大事だと思っています。

この文章の中にどういうふうに取り込んだらいいかということは、ちょっとまた考えないといけないんですけども、私の感想です。

○新垣委員 前回の議論でも触れたのですが、南町は人がうらやむようなコミュニティセンターの活動をされていることは既に指摘しました。それ以外にあと2つほど、それなりの特徴あるコミュニティセンター活動をしておるといのは、指摘したとおりであります。

何が違うのかというと、自主三原則という言葉は非常にいいのですが、自主三原則の中身は何かといえば、コミュニティセンターという建物の運営管理についてだけ自主三原則であって、いわゆるコミュニティセンターとは何だという、地域コミュニティのネットをセンターの中でどういうふうにコーディネートするかというそもそものコミュニティセンターのあり方について全く触れられていないで、コミュニティセンターという館をいかに運営するかということでの自主三原則に陥ってしまっているというところに問題があって、その部分がこの長期構想なり施策の大綱なりにあって、それが長期計画に反映されると具体的にいえばああいうことしか書いていないというところになっておるので、そのところをきちんと整理してメスを入れないと、長期計画をどういじったところで、基本的な部分は直らない。

そういう意味で、施策の大綱なり長期構想なりの記述の仕方と考え方について一遍吟味して整理し直すということをししないと、長期計画のローリングはなかなか難しいと思います。

○西園寺委員 委員の皆さんにお聞きしたいのですけれども、コミセンが一番長いところで 30 年たっています。私らの任務は長期計画ですので、これから 30 年先の 2036 年とか 2037 年になったときに、武蔵野市にコミセンは必要でしょうか。あった方がいい、別な形に変わった方がいい、なくていい、いろいろ選択肢があると思うんですが、30 年後の武蔵野市にコミセンは必要でしょうか、あった方がいいでしょうか、皆さんのご意見を聞いてみたいです。

○皆川委員 今の発言はどういう意味ですか。この場で論議する内容なのか。あなたは「家づくり」をちょっと提案されていますけども。

○西園寺委員 私から見ると、コミセンという場所にかかわってこられた今の 60 代、70 代の女性の皆さんをすごくうらやましく感じるわけです。そういう器にかかわれて、それこそいろんな近所づき合いができたというのはとてもうらやましく感じるんです。

今、ここにいるのは、私より年上の方が多いですけれども、30 年後、長期計画を考えて、10 年、20 年、30 年後を考えたときに、今の 20 代、30 代、40 代の方が 60 代、70 代になって、どんなコミュニティづくりをなさるのかなとイメージするわけなんです。

そのときに、今のコミセンを建てかえ、建てかえを繰り返しながら、やはり同じように続けていくのだろうか、それともその建てかえのときに、その土地を別な形に変えた方が喜ぶ人もいのだろうかということを考えるわけです。もしかしたら、その時点の、30 年後の武蔵野市民は別の選択をするのかしら、そういうことを考えるわけなんです。いつていることが変かな。

だから、1つ1つの項目じゃなくて、全体的な構想ということを考えたら、それこそ市民生活という小さな分野のコミセンじゃなくて、すべてにかかわる、本当に市政全体にかかわる一番大きな核になるかもしれないと思うわけです、コミュニティづくりというのは。だから、福祉も教育も防災・防犯、環境も全部かかわってくる拠点、市民活動、市民生活のすべての拠点になるという可能性だってあるわけなので、そういう意味で聞いたんです。言葉が足らなくて済みません。

もしお許しいただければ、私なりの「みんなの家構想」というちょっと変なアイデアを皆さんに読んでいただきたいなとは思っていますけれどもね。お許しいただければ。

○皆川委員 でも、時間の関係もありますから、それはもしあれでしたらコピーして、皆さんに配る。

○栗原委員 コピーして配ってもらったらいかがですか。

西園寺さんからの文章は、「みんなの家構想」という形で、全体のビジョン、彼女のビジョンをまとめたものが出されましたので、とても短い言葉ではまとめられないですから、それは別途コピーして配っていただいて、きょうのきょうですから、検討の素材には難しいと思いますけれども、このコミュニティは必ずもう一回やりますから、そのときに考える材料にさせていただけるといいなと思うんですけど。

○皆川委員 ただ、私は司会の方からおりて発言させてもらおうと、皆さん、うらやましいなと思いながらやっていますが、今のコミュニティで十分可能だと私は思っています。

ただ、先ほど白石さんの方から出たようなああいう問題がやっぱりありますので、自主三原則というものは十分理解されていないわけです。ですから、その辺をやはり我々の提言の中で生かしていくということでやっていけるんじゃないか、こういうふうに思います。これは司会という場を離れて申し上げますけど。

奇想天外な発想もいいですが、要は我々の提言は、現状の市政について課題があるわけですから、しかもやれることですから、そういったある程度の枠も考えながら進めていくということではないか、私は一市民としてそういうふうに感じています。

司会の場から離れて申しわけないですけども。

○石川委員 私は非常に即物的というか、ある意味では現実的に発言しているつもりなんです。ということは、少なくともこういう条例があって、今皆さんがいわれていることはコミュニティづくりに関する総合的な施策という中に、どういうもの、どういうビジョンを折り込んでいくか、そういうことじゃないかと思うんです。

今ここで全部そういうものを出すというのは無理な話で、実際に団体というのは例えばコミュニティもあるし、青少協もあるし、福祉の会もあるし、今いったように、コミュニティづくりというのはハードの面とソフトの面、両面あるわけですから、相当総合的に、専門的に今の縦割りを横割りにしたような格好で行政と市民がこの問題をじっくり検討して、この条例まで変えていく、そういう構想、思想を入れながら変えていく、それだけのこととなると、そう簡単にできる問題じゃないと思うんです。

そこで私は、今具体的にこういう格好で調整計画をやるのだったら、この施策の中にこういうコミュニティづくりに関する総合的な施策を策定するということを入れておけば、そういうことを検討する会議を持ってやっていくんだということはこの中に入れておくということでもいいんじゃないかなというのが、私の今言いたいことなんです。

そうしないと、この問題をそういう基本的なことまで全部論議していくということにな

ったら、それはとても無理な話なので、むしろそういうものをポイントとして、必ずこういうものは条例に入っているのだから、それは市だけでつくとっているんじゃないよ、それは協働でやるんだよ、そういう基本的な考え方だけをこの中に入れておいて、それはどういう場でやるかということは、またそれ専門の、それこそ市民会議も相当じっくりやらないと、いろいろな考えがあると思いますから、そう簡単にはできない、私はそう思います。

○河田委員 石川委員は答申案を非常にテクニカルな面からご意見を述べられたのだろうと思いますけれども、前々回ですか、第4回の市民会議の議事録の確認をきょうやりましたけれども、その中でも白石委員が先ほどと同じようなことをいっておられまして、まさにコミュニティ条例そのものにかなり問題がある。

コミュニティセンター条例からコミュニティ条例に変えるときのことは委員の発言の中に出ておりますけれども、こう書いてあります。「コミュニティセンター条例からコミュニティ条例に新たに変わったわけですが、その変わり方のときにとってもこれを受けてということはコミュニティ委員会の答申を受けてつくられたものとは思えないようなコミュニティ条例ができています」というように、コミュニティ条例そのものに対して大変疑問符を出されているわけです。そのことをちゃんと踏まえて議論しないと、ただそこにあるからそれとこれとは整合したらどうかというのではなくて、もう少し根っこのところに入りまして、じゃコミュニティとは何だと。

私は、別に西園寺委員が、きょうコピーを配られるでしょうけれども、そこで言いたい、言わんとされていることと、今までやってきた、つまりまちづくりの核がコミュニティセンターであって、そのコミュニティセンターの運営の基本は三原則である。これは私は非常に普遍的な原理に立ったやり方であろうと思います。

したがって、私の今の認識では、それを変えることの必要性は余り感じていないし、今配られたか知らぬけれども、「みんなの家構想」という西園寺委員のアイデアも、僕はその中で抱合していけるんじゃないかという気がするんです。

ですから、この場、この20人の会議では何が大事か。今まで30年やってきた武蔵野市の理念というのが、その理念に純化した形で徹底していけばそれでいいと考えるのか、それは時代に合って変えていくのがいいのかと考えるか、そういう選択をここで議論するんじゃないかと思います。

私は結論でいいますと、今までのコミュニティの基本的な考え方、要するにコミュニテ

ィがまちづくりの核になるということ、そこにいろんなものをネットワークでNPOだとか何かも、逆にそこに抱合していく。その運営というのは基本三原則である。これだけは皆さん、ここで確認すればいかがかな。西園寺委員のご意見もその中に抱合していく方法はあるんじゃないかなという感じがしますけれども、いかがでしょう。

以上、提案します。

○西園寺委員 ありがとうございます。この件は、別にきょうは相談していただく必要はないんですけど、私なりに長期計画ということを考えてときに、何十年後の武蔵野市と考えたときには、こういうことかなと思ってつくってみたものなので、1つのきっかけとして考えていただけたらありがたいと思うんです。

すごく極端なこともいうかもしれないんですけど、私、こういうことを考えたんです。今の境南コミセンを活発に使っています。さっきの皆さんの反応を見たら、武蔵野市にコミセンが要らないと考えている人は1人もいないということがわかりました。だけど、30年たったので、いずれ建てかえをしなくちゃいけません。そのときに、どういう建物をしようかということをもたまたま考えると、すごく極端な話をいうと、今のゲーム世代の子どもたちがそこで何をしようと思うだろうかと考えたんです。私らが常識と思うような、そこでカラオケをしようとか、会合をやってみんなでお茶を飲もうというんじゃないなくて、そこをゲームセンターにしようとか考えるやつが出てくるんじゃないとか、そういうことをちょっと考えたんです。ちょっと極端過ぎることなんですけど。30年後の武蔵野市民は何を選択するか、私は予想できるのかしらというのをイメージしたんです。

とにかく私らが現状で常識と思っていることと30年後の武蔵野市民の常識は、もしかしたら違うかもしれないということをちょっと言っておきたいと思いました。

コミセンが武蔵野市にとって物すごく大切に、有用なものであるということが、この中に合意があるのであれば、それをいかによくしていくかというか、もっともっとみんなが生き生きできる形に見直していくということだと思いますので、ぜひ条例の文言を直していくということも結構ですし、具体的な運営の方法として、役員の任期制をもっとはっきりさせるとか、いろんな形を入れていけばいいのかなと思いました。

どうもありがとうございます。

○栗原委員 1時間半過ぎましたので、発言されていない方に一度マイクをお回ししたいというふうに思います。

○皆川委員 では新垣さん、簡単にやってください。

○新垣委員 意見の大半はペーパーで出してあります。ただ、箇条書きにしていないので、整理していただけなかっただけだろうと思います。

西園寺さんのいわれていることも河田さんのいわれていることも、私の書いたことも、共通的な部分がほとんどだということです。

1つは、30代、40代の働き盛りの人たちがなぜコミセンに来ないのか。子育て真っ最中の世代がなぜコミセンに集まらないのか。それから、若い人たちがなぜコミセンに集合しないのか。そういう人たちのネットワークがなぜコミセンを利用しないのか。なぜコミセンからそういう人たちに対して情報を発信できないのかというところも含めたコミュニティセンターでなきゃいかぬ。それを自主三原則で運営したらどうか。

建物を自主三原則で運営する、そんなことはどうでもいいんです。コミュニティセンターという建物のあり方が今後どうなるか、30年残るかどうか、それもどうでもいいんです。問題は、コミュニティセンターが安全であり、みんなが集まりやすく、そこから情報が発信できて、市民生活の中で情報がお互いに共有できるというセンターになるかどうか、そこが一番問題だというふうに私は思っています。

○皆川委員 それでは、まだ発言していない方も含めまして、コミセン問題だけでなく、ほかも含めて、もう時間の関係もありますので、お願いします。

皆さんから出されたものを見ますと、やはり男女共同社会などの問題について、かなり関心を持っておられるという感じもしていますので、ここにもまた出ておりますが、さらに敷衍することがありましたら、どうぞお願いします。

○栗原委員 具体的にということですね。

○長嶋委員 コミュニティセンターはいつも利用するのみで、皆さんのご意見を伺って、初めにできたころよりずっと使いやすくなったなという印象なんです、コミュニティセンターが。そういう意味では皆さんがずっと努力されてきた結果がそうなっているのかなと、今聞きながら思いました。

それから、西園寺さんがおっしゃっていた何年後かという話も、利用する側にとっては、まだまだこうしてほしいというのがいっぱいあるんです。そういうところではもっと住民の人たちが参加して、もっと気楽に、本当にげた履きで行けるみたいな感覚のコミュニティセンターに将来的にはしていくのがいいのかなと思いつつ皆さんの意見を聞きました。感想です。

○赤松委員 コミュニティのことで、これはいろいろ条例に基づいて学識経験者とかコミ

ユニティ関係者、公募市民、市職員で、第1期、第2期と検討しながらやっているというこの状況がこの本でわかるのですけれども、この開放性、透明性の向上についてどういうところを指摘して、どういう評価をしているかというのがわからないので、私から見ますと、開放性、透明性で、今の段階で何が大事か、それが発展的で生き生きしていくように地域とつながりを持って、それには何が大事なのかということその検討に入れてくださっているのかなということも感じました。

すごく大がかりな構想だと思うんです。だから、それがもっと地域と密着した、身近な、生きている案であったらいいなと思いついて伺っております。

○上月委員 私もまだ1年しかたっていないので、各コミセン3軒くらいしかまだ回っていませんけれども、各コミセンによって、3カ所でそれぞれ違うのです。私が一番近いのは西部ですけれども、前の資料から見ても、西部が一番利用率が悪いか、行事も少ないとなっています。事実、そうだと思います。桜堤に行っても、境南に行っても、確かに入りやすく、皆さんもまた非常に楽しくやっています。

例えば西部であれば、亜細亜大学の学生がたまたま来てやっているとか、もっぱら高齢者専用で、我々専用に使っているのです。だから、各部屋が全部満室になることは絶対ありません。我々だって、5～6人とか20人とか入っていますから、実際はまだまだ常時人数は少ないのではないかと思っています。西部であれば大体6割と出ていますけれども、実際の部屋の容量とか本当の利用価値からいけば、まだまだ少ないのではないか、3割近くではないのかな、そう感じています。

どなたかおっしゃいましたけれども、いかにコミセンを入りやすく、利用しやすくするかということが一番大切なことだと思います。例えば桜堤にすれば、もちつき大会だとか、いろいろな遊びを計画しているのです。そういうことで、私も提案したいのは、各コミセンに市が100万円ぐらい出して、自主的に皆さんをいろいろ呼び込む遊びなりゲームなりをたくさんやるような方法を考えてやれば若者も入ってくるでしょうし、商品だとか景品とか、ある程度出すものをつくって初めに呼び込むような方法が必要ではないかなという感じもしています。

○島田委員 私、国際交流について。ちょうどきょうのテーマの1つなんですが、ジュニア大使とか青年の翼は中学生、高校生が海外に行っています。この間ちょっと書いたのですが、追跡調査というか、何か少しプラスになっているのか。将来、アメリカへ行ったためにこういうふうにとのこと。うちの30歳を過ぎている娘が、始めたぐらいからずっ

とやっていると思うのですが、結構月日がたっているのですが、そういうプラスになっているか、役に立っているのかどうか、追跡調査みたいなのをしていらっしゃるのかなというのがちょっと疑問にあったので。

それと留学生は亜細亜大学とかろいろいろなところに入っていますね。せっかくいろんな国の学生さんが入ってきて、どうせ来たのならその国の歴史とか文化、そういうのをいろんな小学生とか中学生に教えてあげられるようなシステムにしたらいいのではないかなというのが提案です。

○栗原委員 その追跡調査の方は市に少し聞いてみましょうか。

○五十嵐交流事業担当部長 今の追跡調査はどうかというお話ですが、毎年きちんとやっているわけではないし、また例えばジュニア大使、ジュニア交流団は中学生を送っていますけれども、それに行ったことによってその人間がどう変わったか、それを追いかけるのは非常に難しい。

しかし、2年前ぐらいにそういうご指摘があったものですから、それまで参加した人に一斉にアンケート調査を送りまして、調査の結果をまとめたものを報告書に出していますから、今度お持ちしたいと思います。

○上月委員 関連で。司会者の私が質問したらまずいですか。

○皆川委員 いいですよ。

○上月委員 国際交流、皆さんも外国旅行は相当やっているのです。ですから、改めて市で補助金を出してまでやっても、今の島田さんが発言したとおり、ほとんどプラスのものはないと思うんです。ですから、私はこれはもうそろそろ廃止すべきじゃないかと私は思います。

○瀬口委員 おくれて来て済みませんでした。

ちょっとほかの皆さんの話を聞けなかったのは残念なんですけれども、コミュニティについて今後上に上げていく中でぜひ盛り込むべき部分ということに関してなんですけれども、この間の会議のときも発言しましたとおり、コミセンの果たしている役割、それからコミュニティ協議会の果たしている役割は非常に大きいと思っております。

それぞれ初めのころ大変だったと思いますけれども、また地域差も、先ほどご指摘ありましたように、ありますけれども、まちづくりの果たしているところとか、行政に対して意見していくということに関しても、今は欠かせない状況だと思います。

その中で、それが偏在しているということに関しては、本当に重大な問題だと思ってお

ります。といいますのは、機会の均等という部分で、それから使い方という部分をあわせて、これは今回の長期計画・調整計画の中で盛り込んでいきたいと思います。

具体的に申しますと、境、境南地区の特に東側の部分で、コミセン以外に本当に施設がないということで、住民が何かあって集まるときも本当に苦労しておりまして、来年私たちのところでもちょっとした集まりをやるのですけれども、集まるところがないということもありますし、実際今度アンケートをとったのですけれども、ある土地があって、それをどう使いたいかということに関しましてアンケートをとった結果が先週出まして、それによりますと、もともと市が公園として計画しているところではありますけれども、ということを知っていてもなおコミュニティの拠点にしたい、コミセンのようなものが欲しいという声が、合わせて約7割がそのような意見を出していました。数字は西園寺さんの方に送ったのですけれども、そういうことですので、切実な問題として、それを今回盛り込みたいと思っております。

○河田委員 この整理項目、裏表ありますね。これからどういうふうに絞り込んで、どういうふうな答申原案をつくっていくのかというプロセスをちょっと明確にしておかないと、ただここでわっと言っただけで終わるのか。

特に、この中で議論を絶対しておかなければいけないのは、テンミリオンハウスの発展的解消であるとか、今の発言にもありますけれども、コミュニティセンターが偏在しているのを直すとか、新しくつくることの提言はお金の裏づけさえあれば幾らでもできるでしょうけど、やめるということを書いてあるものは、理論的にもいろんな議論にたえるものを用意しないと、なかなかしんどいのではないかという気がする。その辺をどうするのか、ひとつ諮ってみてください。

○皆川委員 実は今後のコミセンだけじゃなくて、そのほかについても、きょうのいろいろな提言なりご意見を踏まえて、皆さんから出されたものをこうしてコンパクトにまとめてもあります。第4回で大分議論もしていますので、その繰り返しもかなりあるなと思いつつながら、私伺っていましたけれども、そんなことできょう以降、我々3人できょうこの論議を踏まえて、いずれ緑なり何なり終わった後、提言として皆さんのところに出せるようにしていく。

これは我々だけじゃなくて、次に市民生活2があり、緑があり、環境もありということですので。そこで提言のまとめをやっていかなくちやいかぬと思いますから、その段階でまとめるようにしていきたい、こう思っています。そんなことを我々3人の事前打ち合わせの

中でやってきています。

ということで、今後の進め方についてはそういうことでどうですか。

○河田委員 起草していただく前に、意見を集約しないと、起草する人だって起草できないですね。3人の人に意見を……。

○皆川委員 集約するためにまとめないといけないでしょう。そのためものをやる。

○河田委員 どの方向で集約するかというのは、ここで議論して、そうですね、ああですねというみんなの合意があってから、起草委員が文章を書くんじゃないかと私は思います。

例えば、歴史資料館をやめる。まだ開設もしていないんだけど開設作業をやめるといふ提言が具体的に書いてあります。これは、さっきもちょっといいましたけれども、ここで提言するということはかなり大きな決心が要るわけです。それは20人が書いたかどうかわかりません。3人か4人が書いたのかもしれない。20人の人もそうだといいのかわかりません。いやちょっと待てよというのかというのは、これは議論して決めないと、僕は起草委員に任せるといいのかわかりません。

○皆川委員 そのために、ということは今の問題だけじゃなくて、全く正反対の意見があるんです。それを無視するということはいかぬでしょう。それを今度議論する場をつくる、そのためにまとめますということです。そうじゃないと、それこそただ時間の浪費になっちゃうんじゃないかと。この問題は、こうして出された中でも全く右と左と意見があるわけですから。それをまとめたものを出して、そこで議論するというので、そういう絞り込みをしていかないと、それこそどうですか。

○小竹アドバイザー 時間的にきょうから4回大きなテーマをやっていきまして、その後2月に入りますので、2月2回と3月の2回あるいは3回ずつになるか、どのあたりから絞っていくかというのは、早い段階でやってしまった方がいいのか、あるいは練った意見で何か出てくるということになると、少し時間をかけていいのかなと思うのです。

例えばきょうは、この後少し時間を割いて各グループで打ち合わせ会みたいなのをやりになるというご希望が出ていると聞いていますけれども。

○栗原委員 それは提案です。

○小竹アドバイザー それはまだ決定事項ではなくて。

○栗原委員 提案です。ここで決めていただければいいんじゃないでしょうか。

○小竹アドバイザー 今8時半ですので、実質的にはあと40分あるかないかぐらいですね。最終的な事務局からの連絡も含めまして。そうしますと、それを決めていただいた方

がいいんじゃないでしょうか。

○栗原委員 これはご意見をいただきたいと思いますが、僕はここまでの話を特にコミュニティについて伺っていて、大枠のところ、大事なところをまず押さえないとけないんじゃないかという思いが強いです。

では大事なことというのはどこなのかということは、河田さんがいわれた、さまざまな市民活動の核になるのはコミュニティであり、その三原則なんだということだったり、石川さんのいわれたようなコミュニティづくりの総合的な施策を策定するというのを1項目入れて、その中で市民委員も加わって話し合っただけで条例をつくり直すなり何なりということを検討していかなくちゃならないということであったり、そもそもコミュニティというものはいかなる理念でもって行われようとしてきたものであり、それが現状どうなっていて、そこをこれからもう一遍どう作り直していこうかという組み立てであったり、非常に大きな、大事な部分をここの中である程度共有できた上で個別の項目の是非について議論していくことになるのではないかと思います。

きょうの話は、そういう意味では意見は出されましたが、それが共有されたのかどうかということは、僕はちょっとよくわからないのです。それで困ったなと思っているわけなんです。河田さんのいわれた意見集約とかをどういうふうに進めていけばいいのかなというあたりがあります。

あと、時間的な制約のことでいえば、きょうも傍聴に来られている方がいますので、その方の意見を伺う時間もちゃんととりたいという思いもあります。

○河田委員 賛成、反対を見るのが一番早いんじゃないですか。

○皆川委員 何ですって。

○河田委員 問題点を出しますね。意見の対立があるかどうか知らぬけれども、この問題の皆さんの意向を聞いておかなきゃならぬというのは、議長さんがそこに座っているのだから、つかんでいいと思うんです。

例えば、一番簡単なことをいいますと、歴史資料館、ここに書いてありますが、このとおりでいいと思いますか、賛成、反対。そうしたら大体わかるじゃない。そんな面倒くさいことを余り考える必要はない。

○皆川委員 歴史資料館は方向づけが出ていますけど、コミュニティ問題などについては……。

○河田委員 ここで決めないと、あなた方が書けないでしょうということです。

○皆川委員 意見の集約をしながら、こういう意見、こういう意見という形でまとめますよ。

○河田委員 それは、だからこの前私はいったでしょう。前回ペーパーで提出しましたように、基本的には20人いたら20人全員賛成というものばかりじゃないと思う。それは多数に従ってこの部会の意向を1つずつ決めていく、一步一步そういうふうにしていかないと、なかなか前へ進まないですよと、この前申し上げました。

○西園寺委員 でも、残り30分ぐらいまだ私たち使えるんですよ。だとすれば、1つでも2つでもいいから決めていきませんか。例えば今皆川さんがおっしゃったように、歴史資料館のことが割とさっと一致できそうだったら、それをまず決めちゃいましょう、1つずつ。割とさっと合意が得られそうなものからぽんぽんと押さえていきませんか。あと30分あるなら、その中でもできると思う。

○皆川委員 そういう形でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○皆川委員 それでは、第1番目の今出ました歴史資料館。大勢は、きょう何人かの方もいっておられますが、もうつくらぬでもいいじゃないか、あるいはやるなら武蔵野の歴史性からして資料館的なものを活用するということでもいいんじゃないかということで、歴史資料館というものはもう要らないと。あるいは、どうしてもということであれば、資料的なものに、コンパクトなものにまとめていこうという意見が大勢だと思います。

そこで、要らないのか、あるいは資料館的な形で歴史云々ということではなくてということなのか、その辺について挙手をお願いいたしましょうか。（「いきなり挙手ですか」と呼ぶ者あり）また議論したら、それこそ一晩じゅうかかっちゃう。

○石川委員 例えば歴史的なというのは何も古いものということじゃない。じゃ私の意見だけ聞いてください。

要するに、歴史的遺産とは何かと考えたら、平和への思いを込めた中島飛行機の工場の歴史、そういうものを展示する。資料館ということでもなくてもいいから展示する場、そういうものを例えば八幡町コミセンの一室に設けたらどうですかという意見を出しているのですけれども、そういうのは要るのか要らないのかといったときにどっちに手を挙げればいいのか、それを教えてほしいわけです。そういう歴史的なものは一切要らないのか、「館」というのか、展示する場所が……。〔「資料室と書いたらいいのに」と呼ぶ者あり〕「資料室」でいいですか。

○新垣委員 この間、行政側にその点について聞いたところ、それは含まないというので、要らない、こういう話になったわけで、むしろ見直して石川さんがいうような形で、何らかのどこかのところにそういうものを展示したらどうかということについて意見を求められれば、それなら賛成。しかし、今のままでの行政の立場とこの歴史資料館という立場でいくと、それは含まないというのなら要りません、こういうことなんです。

○島田委員 前に私が歴史資料館について、これに書いてあると思うのですが、質問したときに、何を展示するんですかといったら、武蔵野の農業を展示するといいましたよね、係の人が。30年後の長期展望で昔の農機具が見たいかなと思ったら見たくない。そういうのだったら要らない。

○皆川委員 大勢はもう要らないと。あるいは資料室的なものでどうしてもということであればということ。

今、石川さんから出ました、私の意見も含めて申し上げますけど、八幡町コミセンに任せておけばいいじゃないかという形でいいんじゃないですか。（「ちょっと違う」「皆川さんが決めるんじゃない」と呼ぶ者あり）

○富川委員 ここの設問で、「武蔵野市の場合、歴史内容から、資料館ではなく既存施設の中で資料室の設置程度で優先事業ではないと思う」という、この説明だけでいいじゃないですか。それ以上のことをつけ加えようとするからおかしくなるので、この設問に対していいか悪いかだけ挙手したらどうですか。

○皆川委員 石川さんの気持ちとしては、やはりそれだけでは不足、足りないということであると思うんです。

私は、今富川さんがいわれたとおりに、ここにまとめてありますので。

○小竹アドバイザー 恐らく皆さんの方向性は一致していると思います。議論、あるいは専門家の方がお越しになったときに、お金をかけて新たにつくる必要はないというところは一致していましたね。しかも、何を展示するんですかといったときのお答えの仕方がちょっとあいまいであった。農業は確かに盛んかもしれないけれども、農機具で武蔵野市の代表的なものになるのかというと、私はその歴史的なことを存じないのですが、飛行機とかいう方が、極端な話をしますと平和とかにつながるからいいのではないかという気もするんですが、そのときにうちのテーマで出すのは、お金がかかることはしない方がいい、そういうのを維持するのにランニングコストがかかって、熱を出せば環境に影響するので、その辺は見合うのかという議論でおさめられませんか。ということであれば、この文章で

いいのですが、何か具体的な提案を入れるとか、その辺は議論していただかなきゃいけないと思うんですけども。

要するに、農機具がいいか悪いかということは、対象として議論していいかどうかわからない。ただ、私たちの分野としていえることは、先ほどいいましたランニングコストとか環境に配慮すると建てる価値があるのか、そこだと思うんです。

○久木野委員 1つだけ排除していただきたい項目があるんです。中央図書館跡地を歴史資料館にするというのがいまだに残っていると思うんですが、そこは削除していただきたいと思います。

○皆川委員 それであれば、この「第4回市民会議 市民生活1での提言・意見概要」、これについて採決していきましょうか。私はこれにきょうの論議の中身を入れて、我々この分野の者として提示していくということを考えていたのですが、今ここで詰めていこうということであれば。もし何でしたらコミュニティだけはちょっと複雑な意見も出てきていますから、後回しにするということで、その他のことについては、そう時間もとらないということであれば、ここで意見をまとめちゃうということで行きますか。

そういうことで行きますと、2番目は抜きまして、「1番目はどうするの」と呼ぶ者あり）1番目はここに書いてあるとおりですよ。そういうことの確認。

○久木野委員 確認で手を挙げるんですか。

○皆川委員 では、いやまずいという方は手を挙げてください。——はい、それでいきます。

2番は抜きまして3番目に「地域情報、市民施設、男女共同参画等について」。

○栗原委員 今、「第4回市民会議 市民生活1での提言・意見概要」で先ほど富川さんが発言されましたので、そちらの方を見ていただいている形です。

○新垣委員 男女共同参画については、まだ十分議論が進んでいないということと、今回からとなっているのは、市の側では数字はつかんでいない、やっている事業については境の駅のところだけだというような形で、あとはどこかの焼き直しという形になっておって、じゃどうするかということについての議論をまだやっていないので、これをちょっとペンディングにさせてくれないかと思います。

○西園寺委員 歴史資料館のところ、ちゃんと読み上げてほしい。

○栗原委員 歴史資料館、今確認したんじゃないか。たっけ。（「してない」「読み上げてほしい、ちゃんと」と呼ぶ者あり）

○皆川委員 読み上げましょうか。「武蔵野市の場合、歴史内容から資料館ではなく、既存施設の中で資料室の設置程度でよく、優先事業ではないと思う」。お三方から出ています。（「全員一致じゃないですか。すばらしい」と呼ぶ者あり）

○栗原委員 男女共同参画ですけれども、境の北側にありますヒューマン・ネットワークセンター、前回僕、提案させていただきましたので、ヒューマン・ネットワークセンターの方とお話しして、ヒューマン・ネットワークセンターの方たちと市民会議の有志とで意見交換をしたいと思っています。

その意見交換を踏まえた上で、その意見交換の内容をここに出しますので、その上で議論していただければと思いますので、少々後回しにさせていただければと思います。

○小竹アドバイザー 具体的な勉強会の日程どりとかをなるべく早くお決めになった方がいいですね。

○栗原委員 日程に関してはヒューマン・ネットワークセンターの方に相談していただくことになっていまして、今週の金曜日にあちらは運営委員会がおありになるということで、運営委員会でこの議題を出していただいて、向こうとして候補の日程を挙げていただいて、こちらとすり合わせということになると思いますが、申しわけありませんが、皆さんのご都合を伺っている状況ではありませんので、1月9日以降になるべく日程を設定して、可能な方に参加していただくという形でお願いできますでしょうか。

○河田委員 1つ注文がありますけれども、その件については行政側からの位置づけが不明瞭だからいろいろ不都合なところもあるのできちんと見直したいということをおっしゃるので、その辺のことについてもひとつ調査に含めて書いていただきたいなど、注文です。

○栗原委員 行政の方に伺いますが、行政の男女共同参画担当の方に意見交換をやる時に参加していただくということは可能でしょうか。

○渡辺幹事長 都合もあると思いますから、必ず出られるかどうかわかりませんが、分野別会議の関係のことですので、当然要望をお伝えして、同席が必要であればそうする方向で考えたいと思います。

○栗原委員 もし不可能でしたら事前に伺うようにします。（「男女共同参画は栗原さんにお任せ」と呼ぶ者あり）なるべく日程について皆さんにご連絡します。年内にプレイスのことでやりとりがあると思いますので、その流れと一緒に情報を伝えていただこうと思います。

○谷委員 男女参画のところで私は第4回に発言しているのですけれども、ここでは今のところでいうと、女性起業家向け低利融資とだけ書いてあるのです。まだ討論ができると思いますが、できましたら実態調査等もやってほしいという意見を申し上げたけれども、入っていないのですけれども、これは入れていただけないでしょうか。

○瀬口委員 こちらの議事録はどちらかというところと質疑がかなり多かったと思うので、皆さんの意見としては、もう1枚の項目整理というこちらの紙になるんじゃないかと思うんです。なので、こちらでこれでいいですかとやっていくのはちょっと違うんじゃないかなと思うんです。

○谷委員 発言が途中だったんですけど。

これだと、「助成制度を制定すべく」となっちゃっているんです。「すべく」も入るけれども、「すべく」でなくても、調査しなければわからないのではないかというのが私の意見だったんです。これだと「制定すべく」になっちゃうんです。「すべく」も含めて。

○栗原委員 つくるべきでないか等も含めて調査をしなければわからない。

○谷委員 それが強いんです。これももちろん入ります。実態調査をしてほしい、少なくともつけてやってほしいということは、別の方にはどこかに入っていましたか。

○栗原委員 ごめんなさい、入っていないです。

○谷委員 ですから、その辺の整合性がバラバラになっているかなと。このペーパーだけで確認していくのは、これだけじゃないかもしれませんが、無理があると思います。

○小竹アドバイザー 今ご指摘ありましたように、進め方で、第3グループ項目整理の紙に基づいてやるのか、「質問事項は除く」でやるのかちょっと混乱しております。幸いなことにコミュニティのことは後に回すということで、歴史資料館はもう済みましたので、整理の方では最後の裏面の中間ぐらいに書いてありますが、そうしましたらこちらの第3グループ項目整理の方でちょうど今31100のところですが、そこからということよろしいですか。

○皆川委員 そういうことですね。

○上月委員 今、大体意見がまとまった内容についてだけここで決をとったらどうかと思うんです。余りあちらこちらに入らないで。

例えば、歴史資料館については必要ないと皆さんの意見が決まりましたね。それから例えば国際交流についてはどうするかというふうに具体的にある程度決めていかなければ、これは何ぼたっても時間がかかると思うんです。

今、皆さんの意見が決まった国際交流についてはどうするのか、あるいはもう1つありました。はっきりまとまった内容がもう1点あったと思うのですが、今回は3点だけ決をとって決めてしまう。残った部分を次回に回してまた議論していった方がいいと思うんです。そうしないと、どれもこれもいつまでも最後まで引きずっていく。

先ほど河田さんがいったように、この中で多数決で決をとって、この項目は完了ですよと決めていかなければ、いつまでたっても問題が尾を引いて残っちゃうんです。そういうことでどうかなと思います。

○小竹アドバイザー そうしますと、31100の男女共同参画に関してはヒューマン・ネットワークセンターとの交流が終わった後ということですので、そうするとこのページは終わりということで本日はよろしいですね。そうしましたら、裏面の方で交流の方に入って行ってください。

○皆川委員 それでは裏面の方、「国内都市交流・協力の推進」ということで、交流地域の課題、公共融資、市として取り組めることを検討する。過疎化問題などについて。これは、どうでしょうか。当然、取り組むように市の方に、行政サイドに依頼していくと。

それでは、1、2、3と読みます。

2は給食食材の供給、落ち葉堆肥を埋める、木材の供給と多様なチャンネルで交流。このあたりはあなたがまとめて説明してくれますか。

○栗原委員 国内都市交流のところには、3点挙がっています。今、皆川さんに読んでいただいた1番、2番、そして評価見直しですね。交流事業に関しては、国際交流事業もそうですけれども、期限を区切って評価見直し。今の時代には必要ないのではないかと思えるものもあるということで、皆さんのご意見はこの3点でした。このことについて若干ご意見を伺っていいですか。

○久木野委員 全体としてはこれでもういいと思うんですけれど、2番の落ち葉堆肥を埋めるというのははるか昔の白浜のことをいっているんじゃないですか。もしそうだとしたらカットしないと。それは済んだことだし、あれはあれでもう実験済みで失敗したということなんですから。今は続いているんですから。

○西園寺委員 申しわけない、昔の話を私は知らなかったんだけど、要は国内交流といって、交流イベントをやって帰ってくるという交流だけじゃなく、例えば給食の食材のレタスを何村から買うとか、都会で出て始末に困っている落ち葉堆肥を向こうの畑に使っていただくとか、ちょうど多摩の木材を今ガードレールに使っているみたいに、いろんなとこ

ろで余っている材木を武蔵野の中の施設にはっきりわかるように使う。この材木はどここの材木ですよということがわかるような使い方をするという意味です。

○瀬口委員 武蔵野の落ち葉堆肥を田舎で使う。

○西園寺委員 田舎の畑に使ってもらったらどうかという意味です。

○栗原委員 この要点は、これまでに余り行われていなかったような、もっと生活につながりがある、いろんなまちと交流していることが目に見えるような形の工夫をいろいろしていきましょう、そういう提案ですね。ですから、個別具体的な提案だというふうに余り考えていただかない方がいい、いろいろなことを考えられるでしょう、そういうご提案だと思います。

○石川委員 交流というのは何を目的にして交流するのかというのが1つあると思うのです。私は国際的にも国内的にも、先進自治体、分野別、福祉とか環境、いろいろみんなかかわってくると思うのですが、そういう先進的な自治体と国内、海外の都市ということになりますけれども、そういうところの交流という観点があったらどうかなというのを提案したつもりなんです。

○栗原委員 そこはわからなかったんです、済みません。

○石川委員 そうですか。そういう意味です。

○新垣委員 見直していただきたい中には、例えば青空市とか当初のスタンスとは違って、今やイベント化して、交流という名に恥じる実態に陥っている部分があります。これについて、もう一度原点に戻るのか、それとも見直してこういうイベントについて切り込みをきちんとするのか、そういうことも含めた国内交流という格好にぜひ見直しをするということを進めてほしいなと思います。

○富川委員 さっき栗原さんがまとめられたと思うのですがけれども、210、220、230 ともに期限を区切って評価見直しだろうと思うのですがけれども、このペーパーの中には、230 にはそれが入っていないものですから、230 にも③として期限を区切って評価見直しというのを入れてほしいと思います。

○皆川委員 それでは続けてください。

○栗原委員 今の富川さんのご意見と、石川さんのご意見、先進自治体との交流ということと、31230 に関しては見直しのご意見がなかったので入れておりませんでした、こちらにも評価見直しを入れた方がいいのではないかと。31210 だけでなく、220、230 まで含めて検討に入っておりますけれども、それ以外のところでもありますか。

○河田委員 石川さんの意見は、過疎に限定しないということですね。

○石川委員 要するに、これは評価という中でやるのかということ。

○河田委員 ということについては異論があるということですね。

○石川委員 そういう部分があってもいいかもしれないけれども。

○栗原委員 過疎のことについて言及したのは僕だと思いますけれども、これは長期計画の中に地域、地方と交流するときに、お互いの持っているものを交換し合うということと、お互いが抱えている課題を共有して、ともに解決の方向に向かって考えていく、そこに過疎化の課題を抱えていると書かれているのです。

ですから、本当に交流するということであれば、相手の地域の側が抱えている課題についても武蔵野市として何か考えられる、あるいは協働で取り組めることはないのかということもこれから長期計画の中で検討していったらどうだろうと思って提案しています。ということなんですけれども。（「もう決っていいんじゃないの」「おおむねいいです」と呼ぶ者あり）

よろしいですか。それでは、またさっきのように 31210 から 31230 までですけれども、順番に読み上げます。1、交流地域の課題、例えば過疎化を共有し、市として取り組めることを検討する。これは1つ1つ賛成を聞いていけばよろしいですか。（「まとめていいんじゃないの」と呼ぶ者あり）まとめてよろしいですか。というご意見もありました。じゃ、まとめて読みます。「給食食材の供給、落ち葉堆肥、木材の供給等多様なチャンネルで交流をする」、3、期限を区切って評価見直しを行う」、一括で賛成の方。

〔賛成者挙手〕

○栗原委員 ありがとうございます。

4 個目も含めて、「先進自治体との交流」。つまり、交流の目的をはっきりさせて、先進自治体との交流も含めてよろしいですね。青空市は1つの例だと思うんですが、それも見直しの中に含めて考えるということでもよろしいでしょうか。

では、期限を区切って評価見直しの中に市内で行われている活動、そういうものの都市交流ということで、市内で行われている活動に関しても期限を区切って評価見直しを行う。1、2、3のほかには石川さんの方から出された先進自治体との交流、それから新垣さんの方から提案がありました市内で行われている都市交流に関しても、期限を区切って評価見直しを行うというのを加えてよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員 よろしいですね。そこはその2つを加えてオーケーということで。

そのうち31220の「国際交流・協力の推進」に関しては、肯定的なご意見が余りございませんで、見直したらいいんじゃないのという意見が多いのです。廃止までおっしゃる方もありましたが、これも期限を区切って評価見直しという項目でよろしいでしょうか。

○石川委員 これも「先進」を入れてくださいね。

○栗原委員 これは「先進国」でないですね。でなくて「先進都市との交流」。どうでしょうか。

○西園寺委員 期限を区切ってというのは、あくまでも飛行機に乗っていくという、そのことですね。そういうことですね。飛行機に乗っていくとか向こうから来る、そういうことでしょうか。すべて。

○栗原委員 飛行機に乗って行ったり来たりすることも。

○西園寺委員 行ったり来たりしなくてもいいけども、姉妹都市の評価を見直ししたらいいと。

○栗原委員 そうです。姉妹都市の交流はいろんな形が行われていると思うんですけども、それも期限を切る。

○西園寺委員 お金がかかるからということではなくて、とにかく国際交流の姉妹都市は1回は評価見直ししましょうということ。

○栗原委員 見直そうと。

○西園寺委員 結構です。

○栗原委員 220はよろしいですか。

230の「外国人市民へのサービスの向上」ですけれども、市内の交流、市民レベルの交流は促進。国際交流祭りを評価。2番が留学生への支援の再開で、支援を受けている留学生に、先ほど島田さんのおっしゃった意見も含めて協力してもらって国際協力員という名前をどうするかは別にしても、そういう位置づけで市内の活動に力を発揮してもらおうということ。それと評価見直しの3点でいかがでしょうか。

補助金は、入っています。留学生の支援の再開。これに賛成していただけますか。

〔賛成者挙手〕

○栗原委員 では、31230まで幾つかの項目を加えて賛成ということで。

それで、時間がもう9時を回っておりまして、本来は9時に傍聴の方の意見を伺うという時間をとることになっておりますので、時間が気ぜわしい中ではありますがけれども、せ

っかくいらしていただいていますので。

○小竹アドバイザー 31300 でもし意見が紛糾しなければ、ここでやるとほぼ終わりなんです。ちょっとやってしまった方がよろしいんじゃないかと思います。

○栗原委員 では傍聴の方に少しお待ちいただいて、31300。項目として挙がっているのは4項目。生涯スポーツですけれども、高齢者や幼児、障害者という意見もありましたけれども、参加できるスポーツの推進、2番目、パークゴルフ場の整備。3番目、体育施設の利便性の向上、利用時間の延長とかムーブスの路線に入れるということ。4番目は公設民営の総合型地域クラブの設立、特色ある民間スポーツクラブの拡大というふうに提案されております。

○上月委員 追加説明します。

1番、2番ですけれども、これは「高齢者や幼児」と書いてある。私の提案の中ではなくまでも小学生ぐらいですから幼年、これはあくまでも小学生以上で高齢者と小学生が一緒に遊べるようなスポーツというのはパークゴルフが一番いいんじゃないか。特に北海道だとか沖縄とか、あちらで盛んにやっていますけれども、それが1番、2番の意味でございいます。

○富川委員 私はパークゴルフ場の整備というのは反対です。というのは、パークゴルフ場というのを特定してここで挙げるほどの検討もまだなされていませんから、北海道、沖縄でやっておっても、それが武蔵野で適当かどうかということもまだ議論も全くやられていません。だから、大きな意味で高齢者、幼児も参加できるスポーツの推進という中に入れればいいんじゃないかと思います。

○石川委員 私は、4番目の公設民営の総合型地域クラブの設立を提案したんですが、これはたまたまこっちの方の提言・意見概要の裏に、この間の説明のときにここに書いてあるのですが、スポーツ施設の課題というのは、市の方から一応課長さんが課題ということが出された3つがあったのですが、ある程度そういうものに対応する考え方で、今、公設公営みたいな格好でやっているものは、これからは民営化して地域クラブで。世代もみんなを対象にしてやると。むしろ徹底的なプロとまではいわないけど、選手を養成するようなものは、民間のスポーツクラブがそれぞれ部門別にあるでしょうから、そういうものをやったらいいんじゃないかという提案です。

○谷委員 特色ある民間スポーツクラブの拡大は要らないんじゃないですか。これは勝手に事業をやるわけだから、わざわざ市がどうこうという立場は要らないと思う。だけど、

民間クラブを拡大して、補助を出して、民側がもっと安く使ってもらえるというなら、まだ意味があるんですけど、民間がやるのをどうするというのは全く要らないと思います。

3番目の体育施設の利便性のところは、利用料も含めていただきたいのです。料金的にももう少し安くして、みんながスポーツをして健康な市民というのをつくるという点では、時間だけではなくて、時間を延長すれば健康になるかといったら、夜中にスポーツをやれば健康になるとは僕はとても思えませんから、できるだけみんなが行けるような施設を含めていただきたい。

○栗原委員 今出されている意見は2番のパークゴルフ場の整備というのは、1つのことに特定するという議論が十分されていないので、ここは削って高齢者用にも、つまりだれでも参加できるスポーツの推進ということの中で今後検討していくという形で、1に含めて考えていいのではないかということと、3番の利便性の向上の中に利用料金を低くというものと、4番の特色ある民間スポーツクラブの拡大まで市の長期計画でいうことはないんじゃないかということです。それだけの修正が提案されていますけれども、いかがでしょうか。

○上月委員 先ほど私の表現が北海道、沖縄といったばかりに富川委員が発言されたと思われませんが、前に資料をお配りして、関東地区のものも入っていると思います。川崎でもやっています。ですから、とっぴな、武蔵野ではおかしいんじゃないのという形にはならないんじゃないかなという考えを持っています。

○栗原委員 そのことも含めて、特定のスポーツに関するご提案ですので、1番の中に含めて今後の検討を待つということではいかがでしょうか。

では確認します。生涯スポーツの振興のところでは、1番、高齢者、幼児、だれでも参加できるスポーツの推進、その中に2番のパークゴルフ場のことが含まれるということです。3番目の体育施設の利便性の向上のところでは、利用時間の延長、ムーブスの路線、この延長は別に深夜までスポーツをやるという意味ではないと思いますが、ムーブスの路線にかけるということとか、利用料を安く、いろいろ工夫するということです。4番目は、公設民営の総合型地域クラブの設立ですけれども、特色ある民間スポーツクラブの拡大までは市の長期計画では必要ないだろうということです。よろしいですか。

では、賛成いただいてよろしいですか。

〔賛成者挙手〕

○栗原委員 ありがとうございます。

それでは、ここまで済みましたので、傍聴の方のご意見を伺うのでよろしいですか。

○小竹アドバイザー 2のコミュニティセンターのことはいいですね。後でやるので。

○栗原委員 コミュニティのことはまた後でやります。

○小竹アドバイザー 傍聴の方は、私が進めさせていただきます。

皆様、ご苦労さまでした。時間のなかで、これから傍聴の方のご意見を伺うこととなりますが、今回は1週間前に進め方を決めて、西園寺委員と栗原委員、3人の取りまとめ役の方に大急ぎでまとめていただいて、初めてこういう形にしましたが、また次回こういうふうに資料を先につくっておいて進めるということで軌道に乗せていけたらと思います。今回は特に短い時間の中で、担当の方にはご苦労いただいたと思います。それはアドバイザーとして御礼申し上げたいと思います。

それでは、本日最初3人の方の傍聴だったのですが、お1人ふえて、お1人お帰りになられたので、3名の傍聴の方がいらっしゃいますので、ご発言をご希望される方、挙手をお願いしたいんですが。

では、お2人いらっしゃいますので、本会議の傍聴に関する申し合わせ事項で、傍聴人同士の議論は行わないということと、発言を一定時間内でしていただいて、不足の場合は意見シートを提出いただくということでお願いしたいと思います。よろしいですね。

それでは、初めてのご発言になりますので、よろしくお願いします。

○大矢（傍聴人） 境南町に住んでおります大矢と申します。きょう初めて傍聴させていただきました。私はそこの農水省の跡地の利用について、もう8年以上ずっと興味を持って注目していた者です。

今、専門家会議をやっているのですが、あちらもずっと傍聴していますけれども、あちらの議論よりもこちらの議論の方が頼もしいというか、とてもいい気持ちにさせていただきました。

緑の環境価値の重要性について、皆さんすごく認識していらっしゃるようで、私もとてもうれしいです。さっきの短い議論の中だったものですから、これから緑といって緑のありようというのはいろいろだと思うのです。そういうことについてもこれからきっといいご議論が出てくると思っていますので、期待しております。

私は、さっき歴史資料館は要らないという話が出ましたが、物としてのそういう場所は、私も余り、そう思います。ただ、都があって野があって、その先に新鮮な山があって、そういう民俗学的なロケーションの中で武蔵野、そういうすばらしいネーミングを持った

まちなんですから、そういうことにもうちょっとみんなこだわって、歴史的なこの土地の記憶と私は言いたいのですが、土地の記憶をこれからの人たちも大事に、さっきどなたか武蔵野らしさとおっしゃっていただいたのですが、そのまちそのまちが、そのまちらしさということにこだわっていくことが、これからのコミュニティということに対しても重要な要素になると思うんです。

武蔵野らしさ、そういうことからあそこに関しては、私は最初から、じゃ何がいいんだろうと思って、西園寺さんが書いていらっしゃるように、みんなの庭として、限定した市民の会議室とかスタジオとかそういうことではなくて、すべからく市民がだれでも横を通っただけで木の気配を感じるとか、いい花の香りが来るとか、そういう一瞬一瞬の幸せということこそがこれから求められるんじゃないかとずっと思い続けてきました。

そこは、緑のありようとして、イギリス風な庭とか、いろいろあると思うのですが、例えば国木田独歩がそこからおり立って『武蔵野』を書いたわけですから、やっぱり武蔵野の景観として雑木林。今すごいんです、タイの雑木林とか熊本の雑木林、そういう言い方があるのです。でも、そうじゃなくて、武蔵野の雑木林といった場合は、武蔵野特有な環境の中ではぐくまれてきた美しい景観なわけです。だから、あそこに雑木林をイメージできるような、そういう明るい林が中央線の駅の、由緒ある駅前に現出したらどんなにすばらしいか、それだけが私の夢です。

○小竹アドバイザー どうもありがとうございます。

それでは、前回も傍聴においでいただきました三宅さん、お願いいたします。

○三宅（傍聴人） 皆さん、遅くまでどうもご苦労さまです。きょうは途中まで非常におもしろい議論が出たなと思って、大変参考になりました。

それはどういう点かなと、よく考えてみると、皆さん1人1人が実際にご自分の生活の体験の中からさまざまな市民活動とか興味のあることをなさっていて、そのことから発想していることが非常に参考になるし、説得力があったんです。

そういうことは、行政側の作文からはやはり出てこない。その方、その方が実際に今までやってきた体験の中から、こうあった方がもっと楽しいとか、暮らしやすいとか、そういう意見が出てきたときに、私ははっと非常に参考になったし、いろいろなことを気づかせてもらいました。この市民会議の位置づけ、意味というのは、やはりそういうところにあるんじゃないかなと、きょう、ある部分、非常に腑に落ちたような気がします。

反対に、ちょっと気になった部分についていえば、皆さん、長期計画のこのテーマの中

で挙げられている事項すべてのことは、それほどご存じない部分も正直いってあると思うのです。そういう事柄については、余りわかったような感じの議論はしないで、正直にわからないことはわからないということで行政の力をかりた方がいいと思うので、やはり最初に私が言ったような、皆さんの本当の体験の中から、こうあってほしいというところをもっと鮮烈に盛り込んでいく、そういった議論にしてほしいなというふうにきょうは感じました。

私は参考までに5つの分野を聞いていますけども、それぞれ非常に進め方に苦労していらっしゃるんです。苦労の仕方は1回1回徐々に変質して行って、修正されたり戻ったり、すごく時間がかかっているんですけども、そういうプロセス自体が非常に有効なことは間違いのないと思っているので、きょうも何名かの方から進行の方法について疑問があったり意見があったり、そういうことがあって、それ自体、私はとても重要なことだと思っていますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

どうもありがとうございました。

○小竹アドバイザー どうもありがとうございました。

それでは、傍聴の方の意見を終わりにしたいと思います。

○石川委員 実は、これからの進め方に関連するのですけれども、ここに「長期計画への提言」と、私は私なりにこういう格好で一番左にコードと書いて、今長期計画に載っている施策、それに対してどういう課題があるか。その課題に対してどういう提言をするか、そういう格好で私はまとめて出したのですけれども、最後には長期計画の修正ということになりますから、この施策の中にはさっき私がいったように、基本的なことでつけ加えたいのは、当然入れればいいわけですし、そうでなくて、既に出ているものについて何か問題、課題があって提言するなら、こういうフォームで皆さん出していただいたらどうかと思って、持ってきたんです。そうすると、非常にまとめやすいんじゃないかと思うので、参考までに見ていただいて。これはそれぞれのグループで検討していただければいいのですけれども、私はきょう終わったら緑の人たちにはそういう話をしたいなと思ったんですが、できればこれを参考に見てください。

○小竹アドバイザー これは今だれかが意見の取りまとめをした方が……。

○石川委員 これから年末にかけて、あと3つの分野について皆さんが提案されるときに、ある程度こういうフォームで出していただくのはどうでしょうか、そういう提案です。それは部門別にやっていただければいいと思うのです。

○皆川委員 司会役から離れて参考までに申し上げます。非常にいいもので、今回実は石川さんはこれで出されているんです。わかりやすくコンパクトで、次はここに立つ方に対して、かなりいい案だと思っていますので、どうかこんな形でまとめるようにしてもらうことが大事だと思いますので、ご協力のほどお願いします。これはつけ加えておきます。

○谷委員 確認していただけたと思うのですが、前回来ていませんでしたので、グループ分けの中に入れてませんでした。

○小竹アドバイザー ご希望は。

○谷委員 ちょっと多いのですけれども、4番の市民生活に入れていただければ。

○小竹アドバイザー この間のグループ分けは、あくまでも取りまとめの方を決めるというので分けたので、自由にどの分野でもご発言して結構です。

ただ、谷様がお入りになることで取りまとめ役のメンバーが変わるということであれば、そのグループの中でお決めいただければよろしいかと思えます。

○白石委員 これは最後にまとめてくださる方がこれを使っていたかと、とてもいいかと思えます。

○小竹アドバイザー 書式に関しては、前回だれかがフォームをつくりましょうかといったときは、自由でいいんじゃないですかということでしたけれども、今回、取りまとめられた方から出た、それに対してですね。

○白石委員 意見を出す方はもちろんこれに書ける部分は書いても思いはみんなそれぞれあると思えますから、それはそれでよろしいですね。その確認だけです。

○小竹アドバイザー このフォームに従わなくてもいいですかということですか。

○皆川委員 石川さん、それでいいですね。

○石川委員 これはまとめた言葉を書くということだから、それに対して個別のいろんな意見も出ています。それはそれでまた別表にでもして書いていただければいいと思うんです。これはこういう意味なんだという、その内容がわかるように。それはそれで書いてもらってもいいけど、一応総括的な表現で書いておいてもらえばいいのではないかということです。

○小竹アドバイザー そのほかちょっと決めなくてはいけないことがございます。

まず、冬休みの宿題の期日を決めたいと思います。栗原さんがまとめられたのを一たん郵送するんですけどね。

○栗原委員 僕はプレイスに関してまとめますということをお約束しました。

○小竹アドバイザー ですから、それが1週間ぐらいということでしたので、事務局にわたって年度内には皆様のご自宅に届きますので、大変申しわけありませんが、年明け早々それに目を通していただきまして……。何日あればまとめられますか。

○栗原委員 年明けでは遅いのです。1週間ぐらいで僕がつくって、それを事務局から発想していただきますけれども、その時点でいついつまでというふうに日付を入れて、今回のように西園寺さんのところにご意見があればお届けください。それを私、年末にいただかないと、正月明けて4日とか5日になっていただいても、9日までに書き直すことができません。なので年内にリアクションをいただきたいと思います。

○小竹アドバイザー 年内というのは31日ということですか。28日。

○栗原委員 お役所は28日まででしょうから、多分28日までに。

○小竹アドバイザー では、今週じゅうに栗原委員から市役所の方に原稿が行きますので、2～3日うちには届きますね。クリスマス前には行くと思いますので、よろしくお願ひします。

次回の意見取りまとめは西園寺委員を経てどなたに。あるいは西園寺委員を通さなくてもいいのかもしれませんが。でも、連絡先は西園寺委員が取りまとめていらっしゃるのですね。

○西園寺委員 ここまで来たら、連絡網をきちんとつくっても構わないとは思っておりますが。

○小竹アドバイザー 連絡網に関しましては、個人情報なので、皆さんでつくっていくことしかできませんので、よろしくお願ひします。

それでは、取りまとめをしていただくための日付の区切りをしなくてははいけませんので、それも年内、あるいはいろんな意見を年内までに。前回申し上げさせていただいたのは、きょうのテーマだけではなくて、ほかのテーマも年内までという話でしたけれども、ちょっときついんですか。少なくとも市民生活2に関しては年内に入れていただけますと。

(「速記録がいつ届くかもあるんです」「第5回はいつごろになりますか。きょうの分はかなり先ですねよ」と呼ぶ者あり)

○渡辺幹事長 第5回はやっときょうデータが入りました。ここから職員が簡単な字句の誤りをチェックしまして、また、説明しました課長もチェックしまして、それからですので……。

○小竹アドバイザー でも、年内には。

○渡辺幹事長 年内にはもちろん、お手元には届くようにします。

○小竹アドバイザー 年内だと行き違いになるようだと困る。（「今週中には」と呼ぶ者あり）

○渡辺幹事長 今週は無理だと思います。クリスマスプレゼントぐらいにはなります。土日が入りますので、その前後になります。

○小竹アドバイザー いずれにしましても、1月9日を能率よく行うためには、年内に集約をしていただかないと、ちょっとできませんので、それをよろしく願いいたします。

○新垣委員 速記録が各委員の手元に届いて、中1日明けて、意見を西園寺さんのところに振ってください。それは整理した上で直ちに一両日で事務局へ戻します。

○小竹アドバイザー そうしますと、今回はあらかじめそのテーマをまた見てこられるということですね。いいサイクルだと思います。

それではよろしくございますか。それと、年明けました1月9日に2月、3月の予定を入れてしまった方がよろしいのではないかと思いますので、皆さんご予定が埋まっていますので、スケジュール帳をお持ちいただければと思います。

以上、決めなければいけないことはこれだけでしたね。

○石川委員 ということは、全部の問題を年末までに出すということですか。

○小竹アドバイザー 出せば出していただいて結構ですし、市民生活2については年内です。

では、連絡事項終わりということで、事務局からの連絡事項はございますか。

○渡辺幹事長 事務局からは特にございませんけれども、開催通知は、またいつものようにお配りしているとおりです。今回はそういうことですので、テーマは市民生活2ということになります。第9回、第10回はお決めいただいたとおりでございますので、これは前回と変わりはありません。ごらんいただければと思います。

注意点は、第10回ですけれども、これは市役所の会場がとれませんでしたので、1月30日は総合体育館になりますので、場所と駐車場の件をご注意いただければと思います。

以上でございます。

○西園寺委員 配布資料のことなんですけれども、何でと思われたかかもしれません。私がお願いしたのですが、次回の防災のこと、ごみ問題もそうなんですけれども、武蔵野市に新しく転入してきた人が最初に武蔵野市に触れるのがこれなんです。そこから後は各個人が聞かないと、電話しないと、それ以上は深く入っていけないんです。これをちょっと見

ていただいて、新しく入ってきた人が武蔵野市に対してどう感じるかということを考えていただこうと思ってお願いしました。ダブるものがあると思うので、ダブるものはお返しくださいませ。

○河田委員 前回あたり、何回か資料請求が出ていると思いますけども、その結果、どうなっているか、経過報告を教えてください。

○渡辺幹事長 私の記憶にありますのは、防犯関係の資料ぐらいですけども、こちらについては、まだ警察のデータをいただいております。他は逆にお教えいただければと思います。

○小竹アドバイザー 浄水場の件とかですか。

○新垣委員 浄水場の方については、都と個人個人がやって、既に実施をされて、あと結果をこれから点検をした上で、再度東京都に対して要望を出していく、そういう状況です。

○河田委員 出された本人はそれで了解でいいのですか。

○新垣委員 そういうことにならざるを得ないですね。

○小竹アドバイザー 細かくチェックした用紙が今手元にないのですが、どなたか資料請求して手元に来ていないという方はいらっしゃいますか。

警察の調査のことはもう少し時間を。

○石川委員 こだわるようですけれども、緑が20日なんです。12日の会議が終わってからまた集めますというのでは困るので、緑もことしいっぱい一緒に出してください。お願いします。

○新垣委員 きょうの会議終了後、下のロビーで結構ですけども、長嶋さん、白石さん、近藤さん、今木さん。市民2を簡単に打ち合わせしたいと思いますので、よろしく

○石川委員 緑の関係も集まっていたきたい。

3. 閉会

○小竹アドバイザー それでは、時間が過ぎてしまいましたが、第7回の市民会議、緑・環境・市民生活を終わりにしたいと思います。

皆様、ご苦労さまでした。

午後9時36分 閉会